婦人と子ども

第三卷第五號

謹告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者相互の質疑應答を掲載す、但讀者の應答なき時は、記者之に應ずるものとす。

本誌は一般讀者の寄稿を歡迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育幼兒保育の狀態、婦人問題、婦人兒童の遊戯、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。但質疑投稿は、凡べて左の規則によることとす。

一、用紙は、白紙二つ折、字詰は、半枚十行廿二字詰、體は楷書。

一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。

一、原稿は、一切返附せざること。

一、封書の表には、凡て婦人と子ども投稿と明記せらるべし。

一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。

一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

發行　毎月一回九日發行○第一卷第一號明治卅四年一月一十日發行

定價　一册金拾錢○六册前金五拾七錢○拾貳册前金壹圓拾錢○郵稅各一册一錢○切手代用は壹割增但壹錢切手に限る。

入會者　は會則御承知の上にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會あて申し込まるれば雜誌は無代價にて送呈すべし

購讀者　は總べて前金にて東京日本橋區本石町三丁目二十三番地金昌堂へ御注文のこと○送金は神田今川橋又は日本橋室町郵便取扱所受取人金昌堂あてのこと○見本は切手（壹錢に限る）十二枚封入にて申し越されたし○前金相切れ候節は赤にて●印を御姓名の上に附し候に付き早速御送附下されたく御入用なき時は御斷り下されたく候○轉居の節は新舊共に御通知を乞ふ

編輯　に關する御照會及原稿御寄贈はすべてフレーベル會あてのこと

廣告料　一頁拾圓。半頁五圓

明治三十六年五月二日印刷
同　年五月五日發行

發行兼編輯者　東京市本郷區元町二丁目六十六番地　江崎政芳
印刷者　東京市神田區錦町一丁目十九番地　日下主計
印刷所　東京市神田區錦町三丁目二十五番地　熊田活版所
發行所　女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會
發賣所　東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地　金昌堂

不許複製

大賣捌所　東京　東京堂●同東海信文合資會社●同北隆館

婦人と子ども第參卷第五號目次

子ども

百合姫（やまどの翁）●伊蘇普物語（牧羊譯）●簡易英語●慈善の麵包●三人の親友（北斗女史）●第三號問題の答、問題

家庭

子供の健康に及ぼす兩親の事情、……石井泰次郎
幼兒を世話する人の感情につきてふみ子
今昔いろは料理……鷺江八重吉
嬰兒の泣き方につきての研究……中村多重
嬰兒負ひ方の注意……仝
乳の少きを多く出す法……相州腰越平岩學洋

學術

記憶につきて……松本孝次郎

史傳

大題小題（山撥鼠の裁判）……米溪

文苑

富士山……竹柏會同人
折にふれて……東くめ子
自轉車三首……ひむかし
月のかげ……つねを

說林

歐米の家庭教育及幼稚園保育視察談……下田次郎
衣食住と體育との關係……井口あぐり子

雜錄

花のかたみ……や、て
胡蝶の新入學……故、飯島八千溪
婦人の本領……小島松之助

彙報

●女子高等師範學校●東京音樂學校●音樂學校春季演奏會●實踐女學校●竹柏會親睦會●東京府第一高等女學校●三輪田女學校●癸卯園遊會●保育部大會●新刊紹介●會報

關藤次郎先生編
家庭衛生

普通臨床 看病法

精圖挿入正價參拾錢 郵税四錢

一書中目次（圖數十入）看護婦の責務◎病室◎病蓐◎冷罨法◎吸入法◎（巴）布作り及應用法◎外用藥用法◎芥子泥法◎飲食物與へ法◎食物調理法◎藥品秤量及ひ比較◎皮下注射法◎老人小兒子人老小兒藥服與へ法◎體溫計測法◎脈量法◎呼吸計算法◎瀉法◎灌腸法◎座藥使用法◎尿糖試驗法◎牛乳及び人乳分析◎溫度表

醫學士馬島珪之助先生閲 關藤次郎君著

療核新書

普通衛生

附處方調劑術 正價六拾錢 郵税六錢

本書は普通一般の疾病を網羅し一々詳細に治療の法及處方を指示せるもの覽者一度之を手に掌中にあるを得て山間僻邑醫なきの地と雖も常に醫士を招聘し置の便あり故に學校教員等の看護婦及家庭の衛生に取りては療治急救上日常庶人の缺くべからざる效益顯著の實典也

傳染病研究所長醫學博士北里柴三郎閲

傳染病研究所部長醫學士柴山五郎作著

最近之肺結病療法

第三版發行 菊版全壹冊 正價金八拾錢 郵税金八錢

目次

●第一篇衛生食餌療法○緒言○營養療法○食欲不振○牛乳療法○營養製品○飽食療法○乳清及葡萄療法○アルコホール○空氣療法○强練法○運動及横臥法○呼吸操法○精神の使用○住家衛生○療養所○療養所の撰擇○海濱療養所○航海○內地療養所○高山療養所○醫の監督及病院療養○療養の時日●第二篇特異療法○化學劑○細菌產生物○結核治療血清●第三篇理學的療法●第四篇外科的療法●第五篇對症療法○熱○盜汗○咳嗽及咯痰○咯血○疹痛○呼吸困難○心機衰弱○不眠症○消化障害○貧血○喉頭疾患○諸他の注意比較的治療に於ける注意

從來死癌と認められたる肺勞も今や一定の度に於て正當の治療を施せば全治若くは病氣を中絶し得べきを確定せり本書は即ち之れに關する最近の正當なる治療法を記述したるものにして衛生食餌療法に於ては各氣候、空氣、營養、運動其他療養所に關する諸般の注意を述べ特異療法に於ては諸種の藥物細菌產生物血清等に關し對症療法に於ては各症候に對して施すべき正當の方法と理由とを述べたり結核の治療は醫家と患者との協力により始めて其目的を達し得る者なれば醫家は本書により患者に示すべき方針と理由とを得て患者の信用の大に患者は本書により醫の命令の理由を會得して之に服從し以て治癒の目的を達し得んと本書賣切れの爲め久敷御背顧に背きしが今や三版成る購讀を賜へ

賣捌所 東京市神田區鍛冶町四 電話本局九百四十九番 誠之堂書店

日本橋通三丁目丸善◎本郷切通 南江堂、半田屋其他各所にあり

賣出○婚禮式夏季講習會々員募集

本科ハ曾通一記志望者の為に八月十三日より廿日迄に本會へ申込おき十日迄に本會女子作法長期講習會及女子製菓夏期講習に就き二日より開會せり、本會女子作法の實用上必用の學科なれば特に入會を勧告ず

婚禮式講習會要項

一學科○實用紐結○裝飾用紐結○實用紙折形○普通婚禮式實習及心得（結納式○進物包形水引熨斗實物雛形）（婚禮式○神前床飾女蝶男蝶花形銚子飾長熨斗包樣略膳部拵方諸祝物包形（金銀包末廣包豆の粉包胡麻鹽包其他實物）現今に應用す（き古式及明治式に依て講習す）

包結學科ハ女子作法科中の物にして左の如し

（贈答）敬禮○普通禮○答禮（進物）○衣類○調度○魚類○鳥類○菜類○箱物○曲物○袋物○荒卷○桶物○壺物○編物○把物○帖物（目錄）○忌詞○裝飾○平包○紙包○花結（平包）○諸鉤○片鉤（包方）○紙取方○丸く長き物○丸く短き物○平く長き物○平く短き物○短き物○平く紐き物○丸く細き物○諸品包○筆墨包○刀子錐子○色紙○短籍○硯○伸蛇○昆布○大豆粉○黑鹽○小豆粉○山椒粉○胡椒粉○箸○末廣○金銀貨幣○扇子○足袋○上草履○琴柱琴糸○紅粉皿○白粉○元結○指輪○木の花○草の花○香包○薫物○匂袋○櫛包○鋏包○鼻紙○手遊○紙入○上書○元包（花結）○常用○こま結○眞結○片鉤○諸鉤○男結○女結○機結○繼結○瓶くゝし○雜用○上卷○蛇○蜷○叶○五行○あづま○華幔○六葉○菱○四つ菱○三輪取○から結○衣服○鞐○釋迦頭○梅○捻梅○嗅結○紅葉○桔梗○櫻○諸結○額縁○羽織紐○袴紐○蜻蛉頭○蝶結○蜻蛉結○軸物○古代○近古○近世○掛物○常用○三幅對○眞中尊○袋緒○二輪○三輪○輪結○封結○翁結○笹○箱桶○文箱○手箱○行器○擔○六角桶○腕拔○寶珠○鞭結○專用○懸鏡○懸結○水引○モロカギ○カタカギ○マムスビ○アハビ○ウメ（以上包結は雛形及實物を教授する事）

講習に要する實物製作原料品は自辨たるべし

一講習料 金參圓

申込書式（用紙半紙）

私儀貴會開設の夏季講習會（婚禮式）講習致度此段申込候也

明治三十六年八月　日

府縣　町村　番地

何　之　誰

年月日生

大日本禮節學會御中

東京市京橋區鈴木町十一番地

大日本禮節學會

御注文の節は本誌廣告御覽の旨御附記を乞ふ

新奇發明 増酒資料

壹斗の清酒は即座に倍増し（即ち貳斗）となる大金儲的醸造化學作用の一大發明新法なり

（附錄）腐敗酒直し法、醤油三倍増法、味淋酒速造法、酢速造法、新酒を古酒に變ずる法、香竄葡萄酒速造法、燒酎倍増法、味噌速造法等以上の醸造家及び請賣營業者の大有益案内：右

無代進呈

今回披露の爲拾萬部限り營業者にして望の方は郵券四錢相添申込次第直に傳習手續摘要錄を送呈す速に見よ營業上一日も缺くべからざる

大有益

の秘訣なり是ッ非早く利用せよ驚くべき大金儲あるとを確證す（注意）本館の隆盛を羨み近時當館廣告に贋せて怪しき無効の僞法を傳ふる奸者顯はれたり有志者深く注意して僞傳者に欺かるゝと勿れ：（當館は去廿壹年の創立也）

確實

發明 元祖 日本授産館 東京市神田五軒町拾九番地

肉體色白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして如何程色黑き男女にても特別製貳劑を用ゆれば忽ち肉體

純白色に變

化し艶美の容貌となるを確証す世上種々雜多の色白藥を用ひて奏効なき人は速に本劑を試み見よ眼前に峻烈なる特効を覺ゆ眞に奇効顯著の確證新劑價は並製八拾錢特別製分壹圓五拾錢

專賣元

東京市神田五軒町拾九番地 日新館藥房

月やくし 通經劑

本劑は胃腸を痛めず子宮を害せず如何程長き月經閉止も必ず忽ち

快通流下

する特効あり本劑參劑分を用れは二三ヶ月間滯りたる月經にてもキレーに流下す又特別製分を用れば半年以上の月經閉止にても必ず立處ろに流下し日つ月經不通月經不順より起る子宮病血の道を全治し多年滯りの古血及

惡血毒血

を一掃すると確證す但し本劑は其奏効極めて峻烈顯著なるも毫も衛生無害なり婦人諸君安心して試藥あれ價は壹劑分七拾錢貳劑分壹圓廿錢參劑分壹圓七拾錢特別製分貳圓參拾錢（注意）本劑の大盛を羨み近時續々怪しき無効の顯似僞藥顯はる用藥者は深く注意ありて「專賣元日新館」の名義に注目し購求あらんことを乞ふ

藥房

わきが（腋臭症）

根治確證

新發見藥

醫療賣藥百方手を盡せし如何程頑固劇烈の慢性わきがにて

誓て根治

し決して再發或は他病に變ずる憂なき廿世紀的改良根治新藥なり速に試み苦惱を脫せよ價は輕症根治分六拾錢重症根治分壹圓廿錢頑固劇烈の慢性症根治分貳圓卅錢着金即刻送藥す郵券代用必ず二割増の事（電話下谷五四六番）

以上貳藥

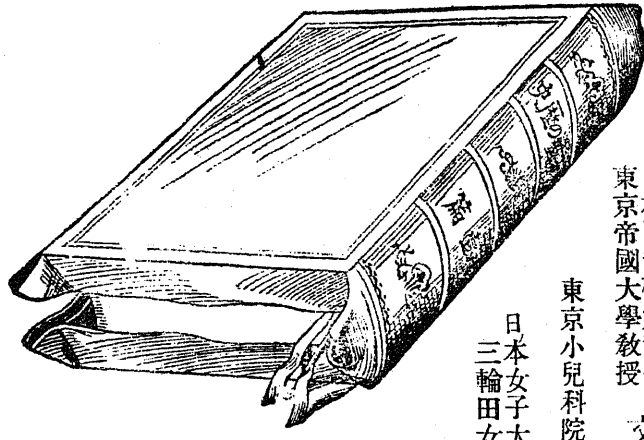
專賣元

東京市神田五軒町拾九番地 日新館藥房

御注文の節は本誌廣告御覽の旨御附記を乞ふ

●世の父母たるものは必ず見よ!!

(兒童の歴史)



宮内大臣 子爵 田中光顯君題辭

日本兒童研究會長 東京帝國大學教授 文學博士 元良勇次郎君序文

東京小兒科院長 醫學博士 瀨川昌耆君序文

日本女子大學教授 三輪田女學校長 三輪田眞佐子刀自題辭序文

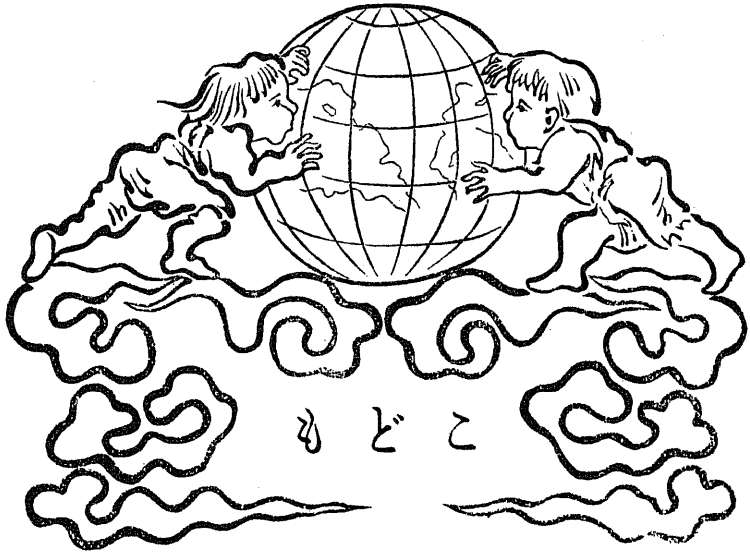
山本翠煙編

◎本書は父母をして兒童時代における日々の出來事並に養育方法、精身の發達及學事等を記錄しかしめ以て他日の參考に供せしめんために刊行せるものにして日誌欄を設くるのほか尙皇室一覽、皇族一覽、天皇御歷代表、年代表、求月表、命名表、生誕日時表、生誕所名表、父母肖像挿入表、父母略歷表、系統一覽表、父母生亡日時表、父母婚姻日時表、親族表、親族生亡日時表、血族出生地並原籍一覽表、血族永眠原因一覽表、血族墓所一覽表、親箴表、祖父母性行表、父母性行表、小兒肖像挿入表、支出一覽表、等の必要なる事項は洩れなく之を網羅し尙記入上最も必要なる事項に付ては東京小兒科院長醫學博士瀨川昌耆先生の特に指示せし處ありて實に完全無缺の良書なり

◎發賣所 東京市芝區西久保櫻川所二十番地 明翠書院發賣部

●尙本書定價表御希望の方は二錢郵券を添へ御申越次第送呈す

婦人とこども
第參卷第五號



百合姫

やまとの翁

むかし〳〵ある處に、年とった樵夫が住んで居りましたが、夫婦の中に今年三歳になる一人の娘の百合姫といふのがあるきりで、身代といったら、一文なしですから、これから後、どうして、此娘を育てゝいっ

たものだろーかと、毎日〳〵夫ばかり心配して居ました。

さて、ある日の朝、この樵夫が、やはり其事を苦にして、心配しながら、山へ行って、木を伐って居ますと、不思儀に、あたりが森としてきて、何ともいへぬ、いゝ香がして來たので、はて不思儀と思って、木を伐る手をやめて、そこいらを見まわしますと、自分の目の前に、夫は〳〵奇麗な、背の高い、一人のお姫樣が、立って居ます。身體中、金の衣服で、まばゆい位だのに、額の所の冠は、星の樣に、ピカーリ ピカーリ光って居ます。あんまり、見事なもんだから、樵夫は ただもー、あきれたまゝで、ぼんやりと、立って見て居ますと、其お姫さまのいひますには

『我は子どもの守り神なり、汝常に正直なれども、貧乏にして娘を育つることできず、依って、今日より　汝の娘は、我が子として養ひ取らせんほどに、もはや、心配するには、及ばぬぞよ』　樵夫は夫をきいて、たゞもー、ありがたさに、胸が一杯になって、急いで、家に歸て、百合姫をつれてきて、神様にお渡しもーしました。

すると、神様は、すぐと、百合姫をつれて、遠い〳〵「幸福の國」へ行かれました。その「幸福の國」では、もー嬉しい、面白い事ばかりなので、百合姫も、こゝへ來てからは、以前とちがって、毎日〳〵おいしい物ばかりたべて、着物といったら、丸で金ばかりで光って居るし、友達はいゝ子供ばかりで、みんなお仲

よしばかりですから、意地惡だの、けんくわなどする者は、一人もありません。

こんな具合で、こゝへ來てから、もー十一年もたちましたから、百合姫は、今年十四になりました。で、ある日のこと、守り神樣が、百合姫を、お傍へおよびになりまして、仰せられますには

『オー、可愛の子や、我は之から、暫らくの間、留主にならん程に、お前は、他の子供と一所に、音なしく留主居をしや、其代り、こゝに在る十三の鍵は、幸福の國の十三の門の鍵なれば、之をお前に預けて行く、一番より十二番までの門は、之で明けて、其中の寶物を拜んでも宜しいが第十三番目の門を明けるこ

とは決してならぬ若し明けたら、屹度罰が當るからよく〳〵氣を付けて、言ひ付けに背いてはならぬぞや』

と、仰せられて、十三の鍵を、百合姫の手にお渡しになりました。百合姫も、決して言ひ付けに、背きませぬといふことを約束しましたから、神樣は、すぐと、どこかへ、おでかけになりました。

そこで、百合姫は、其鍵を持って歩いて、毎日〳〵一ッづゝ、門を明けて見ますと、どの門の中にも みんな、大變に立派な神樣が居て、ぐるりが、まるで ピカ〳〵と光って、其立派なことゝいったらとても、口では言はれぬ程なので、百合姫も、ついて來た 他の子供らも、たゞもー、あきれるやら、喜ぶや

らで　夢中に騒いで居ります。

所が、十二の門は、もーすっかり　開けてしまって、とーく第十三番目の門まで來ました。これは、「開けてはならぬ」と言はれた門なのです。併し十二の門が、あれ程立派であって見ると、この門の中は、どれ程、うつくしいか知らん、と、思ふと、もー　見たくなって　見たくなって　堪らない。そこで、百合姫は、そーっと、他の子供に『わたし、みんな開けてしまわなくってよ、たゞ、ちよいと、のぞける程明けて見よーと思ふの』といひますと、他の子供等は　皆、頭をふって、『そりゃいけないわ　神樣があれ程、言って居らしったのだもの！　屹度、罰があたるから、およしなさいな』といって、中々承知しません。

ですから、百合姫も、其場では、其儘默って仕舞ひましたが、心の中では、もー明けて見たくて、明けて見たくて堪らないのです。

夫で、或日のこと、他の子供らは、みんな、どこかへ遊びに行った留主の時、百合姫は、たゞ一人でしたから、『さー、此時だわ、今誰も居ないのだから、今の中に、一寸、のぞいて見よーや、見て居る者がないから、誰も知りやしないだろー』と、獨りで、考へて、預って居た十三番目の鍵を出して、錠前に入れて、そーっと廻はしました所が、二つの扉が、一度に兩方へ、パッと、明きました。

すると、其中には、立派な、立派な神樣が、三人并んで、高

い臺の上にチャンと立って居らっしゃる、其周圍が、一面に金の御光で、一目見て、眼が眩み相な程、光り輝いて居ります。で百合姫は、吃驚したとも吃驚したとも、暫らくは、物も言ふことが、出來ないで、たゞ默って其儘立って居りました、が、あんまり、御光の光が、見事なもんですから、手を出して、指で、ちょいと、觸って見た所が、其指が、すぐと金色になって、しまひました。さー、大變だと思って、百合姫は急に怖くなって、忙いで門を閉めて、自分の室へ逃げて歸って來ましたが、もー胸ははりさける程に動氣が打って顏色は赤くなったり、青くなったりして、とても、じっとしては居れません。夫に、金色になった指は、どの位骨折って、洗っても磨っても、其

金が取れませんから、今にも、神樣が、お歸りになったら、どうなる事だらうと思って、百合姫は、もー心配で、心配で堪りません。

其處へ、間もなく守り神樣がお歸りになって、百合姫をお呼びになって、先日預けた鍵を返せと仰せられましたので、百合姫は、前へ出て、態と、何も知らない風をして『お歸んなさいまし』といって其鍵をお渡ししました。すると、守り神樣は、默って、百合姫の顏を見て居らしったが、やがて姫に向って『お前、あの十三番目の門を明けたのね』!? と聞かれました。姫は、ハッと胸に應へましたが、そしらぬ顏をして、『イーエー』と答へました。神樣は、默って手をお伸ばしになって、姫

の胸を抑へて御覽になりますと、烈しい動氣で、一面に波打って居る樣ですから、これは屹度見たに違ないなとお考になったもんですから、又尋ねました『お前あの十三番目の門を明けたのね!?』すると、姫は又、知らぬ風をして『イーエ』といひました。神樣は、はて强情な娘だなと思し召されたが、今度は百合姫の指を御覽になりましたので、『お前、隱しても、默目だよ、屹度十三番目の門を明けたのでしょー!?』と三度目尋ねられましたが、三度目ながら、姫は『イーエ』と答へました。

さすがに勘忍强い守り神樣も、百合姫の强情には呆れました、『お前は、私の言付を背いて、私の誡を犯した、もー今日からは、こゝに居て、善い子供の中に置くことは出來ません　これ

から、何所へなりと勝手に行くがよい』と仰せられました。

其中に、百合姫はうと〳〵と眠くなって來て、暫くは何も知らないで、グーっと寢入って仕舞ひましたが、大分久しく經ってから、ひょいと目を醒すと、悲しや、今迄の美しい室だの庭だのは、丸で消えて仕舞って、寂しい寂しい荒野の眞中に、たった一人悄然と起き上った所なんでした。（つゞく）

伊蘇普物語

牧羊譯

其十五　蝗取り

一人の子供が蝗取りに出かけた。大分數多く取ってから、一匹のサソリを見つけて、夫を蝗と間違へて取らうとして、ひょいと手をさし出すと、其サソリめが、刺をとがらかしていふには、『オイ君、僕の身體に指一本でも觸るなら觸つて見よ、僕をつかまへることが出來ぬばかりか、おまけに折角捕った蝗まで失くして仕舞ふよ』

其十六　犬と影

一匹の犬が口に一片の肉を喰へて、水の上の橋を渡りかゝって、自分の影が水に映ったのを見て、夫を、他の犬が、自分の肉の二倍もある肉を喰へて居るのだと思った。そこで、其大きな肉を奪はうと思ったので、自分の口に喰へた肉は捨てゝ仕舞つて、恐ろしく影を目がけて食ってかゝった。其爲に此犬は兩とも失った、即取らうとした水中の肉と、夫は勿論自分の影だったからして、夫から、自分の持って居たのと、夫はすぐと水に流されて仕舞ったからして。

其十七　仁王と牛追

一人の牛追ひが、牛に車を牽かせて田舍路をやって行った處が、忽ち泥濘の中へ、深く車輪を沈めて仕舞った、處が、此百姓は、たゞ吃驚するやら周章るやらで、其車を見つめて立って居る許り、何もしないで、たゞ〳〵大聲をあげて、仁王樣に出て來て助けてくれる樣にと叫んだ。するとそこへ、例の仁王樣が出て來ていふには『オイ〳〵其車の輪の中へお前の肩を入れるのだ、夫から牛を追って

見よ、夫からして以後は、自分の力で厭くまで骨を折ってからでなくては、此方に助を求めては相成らんぞ、夫でなくって、只管助を求めること許り考へたってとても、駄目だと心得よ』

自ら己を助くるは最良の助なり

其十八　むぐらの母子

一體むぐらもちといふ獸は產れ附きから盲目なんですが、或時のこと御っ母さんに向って『おっ母さん、妾乞度見えるのよ』と申しますから、おっ母さんは其心得違の證據を示してやらうと思って、其前へ胡桃の實を五つ六つ並べて聞きました『そんならお前、之は何ですか』すると子は、夫は石塊です』と答へた。そこでおっ母さんが歎いて申しますには『オや、マー、お前は、盲目であるばかりか、物を嗅ぐ力もなくなって仕舞ったらしいよ』

其十九　牧畜者と仔牛

一人の牧畜者が、森で澤山仔子を飼って居たが、或時一匹の仔牛が見えなくなった。だん〳〵と探して見たが、一向探し當らないので、とう〳〵神樣に誓を立てた、其誓といふのは若し仔羊を盜んだ賊だけでも見附けたもんなら、森の神々へ一匹の仔羊を殺して供へようといふのです。夫から間もなく、小山の方へ上って行った所が、丁度自分のすぐ足下に、一匹の獅子が彼の仔牛を捕へてムシャ〳〵食って居る。之を見て牧畜者は忽ち慄へ出して不意に天に向っていった『賊を見付けたら、森の神樣へ仔羊を殺して供へますと、たった今私は誓ひました、併し丁度今私は其賊を見附ましたが、若し此賊から私の命さへ助かることなら　失

た仔牛は愚か、大きな親牛までも附け加へて進上致しましよう。

簡易英語

I go to School

私は學校に行きます。

Don't you go with me?

あなた一所に行きませんか

Look there, how many boys here are coming!

あそこを御覽、まー大勢の子供等がコチツへ來ますこと、

Let us go with them.

私どもゝあの人と一所に行きませう。

子　ど　も

慈善の麵包

北斗女子譯

饑饉の時に近鄕の或慈善家が市中の貧乏なる二十名の小供を呼ひ此籠の內に汝等の爲に二十個の麵包がある、各々一個宛を取れ、善き時となる迄、日々同じ時間に汝等來るべしと籠を出せしに、小供等は我れ勝に其籠に飛び往き、可及的大なる麵包を取らんと爭ひ或は喧嘩し挨拶もせず、後をも見ず、皆々駈去りしに、貧乏なれども淸き衣服を着たる「フランチシカ」と云ふ少女一人は遙か向に謙遜して立ち居たり、彼の小供等が去りし後やがて靜かに進み出で籠に殘りし小さ麵包を取り丁寧に挨拶して去り、翌日小供等來り前日の通り互に喧嘩し去りしに「フランチシカ」ばかりは此慈善家に丁寧に默禮して進み籠に殘りし殆んど半分

程も小さ麵包を取り元の所に退り再び挨拶し徐々と歸りたり。少女の家には病たる一人の母あり、娘の持ち來りし麵包を切たればバラ〳〵と澤山の銀貨の溢れ落しに母は驚き、定めて誤つて麵包の中に這入しならん、娘よ早く持往きて返すべしと命じたり。娘わ直ちに戻し往しに彼の慈善家は否〳〵誤りに非ず故意と最も小さ麵包の中に入て燒かしめたり。此品わ汝の滿足心と平和心を賞美せんためなり、汝ぢ「フランチシカ」よ終身左樣に致し居れよ、誰でも大なるもの丶爲に戰ふより寧ろ小さものを以て滿足する時は、此麵包の如く後來大なる幸福を得に至るべし

三人の親友

北斗女子譯

茲に親密なる三人の朋友ありたり。如何なる場合といへども互に助け合ひて恰も一体の如く吉凶共に必らず相分たんことを盟約したりき。

或時甲友に突然止を得ざる金子の必要を生じたるを以て近き所に住たる乙友に使を送り何程か都合だけの金額の借用を申し送りたり。乙友は直ちに過分の金子を財布に入れ封印して渡したり。甲友は此金子を受取りて將に開封せんとする際忽ち丙友より書面來り何事なるやと直ちに之を讀下せば金子借用したし併し是非と云ふ程にあらずと認めありたり。されど甲友は自分も金子の爲め究迫し居ることを思ひ合はせ只今乙友より受し封印づきの財布を惜氣もなく其儘に渡したり、されば其財

布には果して幾許の金子ありたるやも知らざりき。丙友は之を待せ置きたる使者に渡したり然るにこゝに又乙友は先に甲友に貸て手元に金子少きときは不都合と思ひ、万一の豫備の爲にとて金の用達を丙友に請ひたる次第なりしが、相憎丙友其時丁度所持せざりしより又甲友に使者を送りて借受來りし金子を又其儘乙に渡したり。乙友之を見るに自分より甲友に送りし財布にして、而も封印も自分が附たる其儘なりければ大に不思議に思ひ、翌日三人會合を催ほし夫々互に前記の次第を相話して始めて譯が分り果ては大笑したりといふ。

●第三號問題の答解

呉市　一狂生

(一)月給を取りても損(村)長と云ふが如し

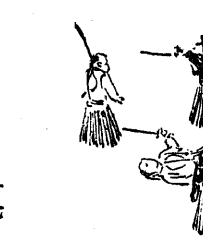
(一)東京に在る河を支那川(品川)と云ふが如し

●問題

仝　人

(一)一人の吏員を群(軍)吏と云ふは如何

(二)市より服役し居るものを郡(軍)人と云ふは如何



家庭

子供の健康に及ぼす兩親の事情

世の中には位置高く財産豐かにして、一見幸福なる家にてありながら、更に子ども出來ず、よし生るとも種々の病に罹りて夭死の不幸を見ることあり、又は幸に生を保つ者も精神身体共に虛弱にして終生他の保護に賴り物の用には立ち難さものあり。かゝる家にては例令物質上凡べての幸福を享け得たらんも、尙何處かに物足らぬ一大不幸を感ずるなるべし之に反して外部の事情寧ろ憐むべき家庭にして麗質玉の如き子どもつぎ〳〵に生れて一人の夭死するものもなく、後來打ち揃うて立派なる發育を遂ぐるものあり。斯く外羨むべき家にも眞の幸福なく憐むべき所に價知られぬ無限の幸福の存するは圓滿の福德は到底人間の享くべからざるの義なるか、又富者を戒しめ貧者を勵ますの意に出るか、抑々又人の得て知るべからざる天の配劑なるか。

所謂天の配劑も、今は學者の研究によりて理義明白となれるもの多し、而して右に擧げたる貧富兩家庭に於ける子供生育の而かく相異なる所以の理も自ら明なるものあるなり。

元來子供の死することは一には子供の病に冒され易き性あると次に子供に限りて特別に要すべき注

意と取扱とを怠るによるといふべきも、又兩親より受け得たる遺傳の關係によることは今や爭ふへからさる定論となりたり。

既に遺傳勢力の事實を認めたる處で「兩親の如何なる事情が其子供の健康に最も强く影響を及ぼすものなるか」に就きて學者の說く所にして大に吾人の注意すべき價値あるものは即左の件々なり、

第一、心身自然の虛弱、弱き者に强き子供生るゝことなし、是れ自然の大法にして動物等に在りても優良の仔を得ん爲には、其親たる動物の强壯なるものを選むなり、人も强壯なれば健全の子を擧げ得べきも虛弱なれば其子亦虛弱なるを免かれざるは最明なり。

第二、早婚　早婚特に微弱者又は遺傳的疾病に傾ける者の早婚が、其子供の健康に及ぼす影響も尠からずとは幾多の學說及實例に徵して明なり。

第三、血族結婚　血族結婚によりて生れる子どもに白痴・風癲、盲人、啞者等不具の輩多きことは、是等不具の原因調査に照らして血族結婚の割合、第一位を占むるを以て知るべし。

第四、晩年の結婚　早婚と反對なれども過ぎたるは猶及ばざるが如く、既に勢力衰退せる時なれば到底强健の子供を擧ぐること能はず。

第五、夫婦間の年齡の不相當　夫婦の年齡甚しく懸隔すれば兩者同時に盛なる時期存することなし、一方盛なれは他方は早晩の一を免かれず。

第六、受胎當時に於ける兩親の健康の狀態　平素健康の人なるも病氣等の爲に大に健康を損せ

る時に當りて胚胎せる子供は、生れて弱き者多きは一家の兄弟姉妹間に健康の度等しからす、兄は無病健全なるに、妹は常に病に難むものあるによりて知ることを得べし。

第七、姙身中母の健康及び行狀　古來胎症の說

あり爰に之を再ひするの要なかるべし。

以上擧けたる事項は、何れも其子供の健康に影響を與ふべき兩親の事情なれども通例育兒學等に於ては第一項乃至第六項に就きては實際に論述すること甚だ少く、僅に第七項に就きて述ぶるものあるのみ。然れども前に云へるが如く兩親の殆んど凡べての事情が遺傳的に其子供に及ぼす力は精神の上又身体の上に顯はるゝこと頗る重大なるものなれば世の父母たるもの又は父母たらんとする者は、以上述べたる事項に付きて常に最も細心注意せざるべからざるなり。

幼兒を世話する人の感情につきて

ふみ子

私共の幼稚園には毎年四月に新しい幼兒をいれますが、其數は本園と分室と合せて、ほとんど六十人近くございます。此等多人數の幼兒の性質は其顏の異つて居る如くに色々ありますが、其の家庭は亦樣々であります。しかしまづ大別なれば本園の方は中流以上、分室の方は下等社會のものでございます。處が此等の幼兒の兄や姉は曾てこの幼稚園で保育を受けたことがあり、また現に保育されつゝあるものも少くありません。そこで、其幾組かの兄弟について比較して見ますと、見るか

ら其体の樣子といひ、擧動といひ、音聲といひ、性質といひ、兄弟であり、姉妹であるといふをがチャント能く分る樣に相似て居るのもあります。またそれ程でなくも其幼兒を知るにつけて段々其兄弟の通有の點を見出すこともありますが、稀にはこれでも血を分けた兄弟で一家の中に育てられて居るのであらうかと疑ふほど異つて居るのもあります。勿論兄弟姉妹だからと申しても皆々左樣に似て居るとも限りません。ある幼兒は父の性を多く受けて居るとか、またある幼兒は母の遺傳を澤山受けて居るといふ樣な事もあり、また幼兒を育てゝ居る父母の心身の狀態も何時も同じでありませんから、從て幼兒は其影響を受けるといふこともあり、尙其他種々の原因で異るのでありませうが、しかし同し父母の許で育てられて居る幼兒でありますと、幼稚園時代では其幼兒の感情は一致して居る點のあるのは普通であります。しかるに姉は誠に少しの事に激し易い、ことにつまらぬことに直ぐ怒る、また總ての物を愛せぬ、即ち草花も愛せぬ、動物も愛せぬ、朋友も先生も愛せぬ、從つて同情心が乏しいといふ樣な風でも、妹はこれとは大ちがひで、いつでも穩かである、優しくつて何者でも喜んで迎へる、友達と樂しく交つて行くといふのもある。また弟は意地が惡い非常に亂暴で、大膽で、物を恐れるといふことを知らぬ、けれども姉は非常のこわがりで、犬が怖い、蚯蚓が怖い、蛙がこわい、又人が怖い、支那人や西洋人が參觀にまゐりますと怖がつて隱れてしまふといふのもある。また妹は奇麗なことが好である、美しい者を愛する、それに姉は左樣な事は一向平

氣であるといふのもある其他これに類した例は澤山ある。そして幼兒のこれ等の感情が其の將來の幸福にいかに重大の關係を、以て居るかといふ事は今更申すまでもありません。

そこでどういふ家庭の幼兒に斯樣なのが多いかと申ますと、右の樣な例は、下等社會の幼兒の方にはほとんど見とめませぬ、また本園の幼兒でも家庭で父母が子供の教育の權を握つて居と、雇人をしてこれを助けさせるもの丶中には、斯樣にまで兄弟姉妹の感情の異つて居るのは少うございます。即ち其多數は乳母や附添人に全く幼兒を委托して、父母がこれに關係せぬといふ家庭の幼兒であります。立派な父母を持ちながら（中にはさうでないのもありますが）其感化を受けることの出來ない憐むべき上流社會の幼兒に多いのであります。此等の家庭では幼兒が三人あれば三人、四人あれば四人の乳母または附添人を置きます。各の乳母や、附添人は各一人の幼兒丈け專一に世話して居ります、斯樣な有樣でありますから、幼兒等は其養育者の影響を受けずには居られません。そして其幼兒を世話して居る人達の感情といふものは固より一樣ではありません。して見れば、此等の家では同し兄弟でも姉妹でも、其感情の異つて居ることは當然の理であります、其上下等社會否下等社會ばかりでありませんでも、中流以下の幼兒になりますと、幼い時から戸外で遊ぶことが多いものでありますから、幼稚園時代の年齡に達します前に、已に割合に多くの人に接して幾らか其影響を受けて居ります。從て左程に一貫して居る傾を持つて居るといふのはありませんが、一人

の子に一人つゝ乳母や附添人が附て居る樣な家庭では三四才までは他に接する人が極めて少うございますから、特更に世話して居る人の影響を受けるのであります。

何故に幼兒はこれ程世話する人の影響を受けるかと申しますと、感情といふものは摸範によつてなるものであります。即ち常に目の前に示されて居る實例によつて、自然に得るのであります。即ち乳母や附添人が無暗に物を怖がつて見せると、幼兒は何時の間にか何でも恐れる、また乳母が何時も穩かな心持で居ると幼時も何となくふうわりとした圓滿な子になる、其感情の感染することは丁度鉄が磁氣を受ける樣なものであります。故に幼兒によい感情を持たせようと思へばまづ第一に乳母や、附添人か良い感情のものでなければなりません。この幼時感情の敎育といふものは口ですることは六ヶ敷もので、實例によつてするより外ありません、まして幼稚園時代の幼兒は口でいふことはなか〳〵分りませんから、全く模範を示してこれにならはせるのであります。實に幼兒を世話する人の感情によつて大切な幼兒の感情の基礎を作ることを思へば、(情は遺傳もありますが)親達は非常なる注意をもつて然るべき附添人や乳母を撰ばなければなりません。

近來乳母を雇ひますのに其人の体質や、遺傳や、年齡や乳の質や分量など色々注意する樣になりまして、まことに結構でありますが、これと同時に敎育的の眼をもつて其人の感情如何といふことをしらべる人は稀であります。これは尤も愛するわが幼兒に對して親たる人の道としては大に欠け

て居るといはなければなりません。そこで如何な感情を持つて居る人を撰べばよいかと申しますと、高尚な感情を持つて居る人は勿論よろしうございますが左樣な人は得ることが六ヶ敷でございますから、まづ同情、憤怒、恐怖、悲歎等の感情を正當のものに向つて起す人ならばよいと思ひます。怒るべき時、怒るべきことには怒り、恐れるべき場合には恐れるのが至當であります、中には自分自らも總ての感情を抑へ、また幼い兒の感情も抑へつけて、よい躾方であるとして誇つて居る附添人もあります。ことに怒の情などは如何な場合でも起させぬ樣にして不自然に情を撲滅しやうと努める人もありますが、たとひ怒の情でも正しい場合には起すのがよいと思ひます。つまり感情は起すべき場合には正當な度合に起す人がよいのであらうと思ひます。

私は同じ兄弟姉妹でも其感情が非常に異つて居ることから、それは乳母や附添人に大に關係して居るといふことを特に感じたのでありますが、これは直にわれ〳〵の樣な多くの幼兒を世話して居る人の省るべきことであります、自分達は只一人や二人ばかりの幼兒に影響を及ぼして居るのでありません、幾十人といふ幼兒に關係があります、私共の責任は決して輕くはありません。

またこれは私共の樣な幼兒を世話して居る人ばかりではありませんで苟くも教育に耳をおいて居る總ての人の注意すべきことであると思ひます。ことに自分は智識を得るに汲々として自分の感情を練習することに心掛けませんと、例令生徒の智育の點に於は成功しましても情育に於て大に失敗す

るでありませう。

今昔いろは料理

石井泰次郎

箙田樂の拵方

（え）

これは通常の田樂の仕方にして、豆腐を先切方して串にさし、爐にかけて燒さて、みそをぬりて器にもる時に、つねの箱より深き箱にして中ばに簀をおく趣向にして、其簀の上につねの箱のやうに串をかくる所をつくりて、田樂を盛る前に、簀の下に梅花をいれおきて田樂を盛りて後に、わきより箱の簀の下へと熱湯を入るべし、さて蓋をして出すべし、又梅にかぎらず、櫻の葉にても、かしは葉にても、菊の葉にても同し仕方にて出すべし

えびらの名は梅にかぎるなり

えび玉子の拵方

さいはき海老にても車海老にても、頭をさりせわたを出して、串をさしてまがらぬやうにして、熱湯の中に鹽を入れたるに入れてゆでて、取上てかはをさるべし、さて玉子は煮ぬき玉子にして、黄味と白味とをわかちて、別々に、先白味より馬尾篩にてうらごしゝ、次に黄味をこすべし、こす時に砂糖と鹽を入るべし、さて白味をそとに黄味を内にするやう布巾の上に美濃がみをしきて上にのばし、其上に海老を串をぬきて切方したるをのせて玉子にてくるむなり、さてくるみたるを布巾ぐるみ蒸籠に入れてむすべし、十五分間ほどむして取出して布巾をとりて、切方すべし是はいと手やすき料理法なり。

次の二篇は長野縣長野尋常小學校訓導鷲江八重吉及中村多重の二氏が明治二十三年來繼續して倦まず屈せず子守教育に從事して研究し得たる結果なり。鷲江氏は高等師範出身にして長野市有名の教育者たりしが、不幸肺患の爲に昨年死去せられたり。此稿同氏が長野市尋常小學校に盲啞學校を附設せんとて同校教員を東京盲啞學校に見習に推薦したる關山國雄氏より得たるものなり。

小西信八誌

嬰兒の泣き方に就きての研究

(一)眼をあき涙を澤山だして泣くのは

からだにいたみ所のある時か、ふなかのいたい時であります、此場合には背より下してからだを改めてそれぞれに手當をしてくれなくてはなりません。

(二)眼をあき涙を出さず、頭を左右に動しながら泣くのは

背負はれ方が窮屈なるか、又は其居り場所に飽きたのであります。

此場合には子守の背より下して抱くか、或は工合よく負ひかへさせて窓を開き、外景を見せるか、又は外へつれ出すが宜しくあります。

(三)眼をあき涙を少々出して、こじつけた樣な聲をして泣くのは

ふ臀にあてゝあるものが工合惡きのか、又はぬれて樣子のわるいのであります。

此場合には直く下して、あてゝあるものをあてかえるか、又は乾いたのと取かへなければなりません。

(四)眼をあき涙を出さずして少しづゝ間を置きて、ふしをつけ此間をおきふしをつける時に眼を細めて泣くのは

空腹なるか又はのんとのかわいたのであります。

此場合には湯をさまし與へるか、又は家にかへして乳を與へなければなりません。

(五)眼を細めるか、又眼の中に少しくうるみを持ち力なく音調を亂して泣くのは眠氣の催した時であります

此場合にはぐら〳〵しないやうに負ひかへさせ頭巾をぬがせて頭を靜かになぜるがよくあります。

(六)眼をあき涙を出さずして眼中に少しく光をおび手足をもがき、全身に力を入れて泣くのは、身体の發育上必要があつて泣くのであります。

此場合には十分か十五分位は其まゝおきて、音の低きを度として子守の背より下して抱くか、再び負ひかへさせて嬰兒の背を輕くぽん〳〵たゝいてくれるがよくあります。

嬰兒負ひ方の注意

結びつけ負ひ方に就きてのおびは長さ九尺の天笠大幅木綿を用ふるを尤も好しとす。

此おびを嬰兒の背より左右の腋下にとりて子守の双肩に懸くる所は成るべく緩め置くべし。

それより子守の胸の前にて一つ結び後へまわし嬰兒の臀部に掛くる所はおびを擴げておの臀を包み適宜しつかとしめて前に廻し結ぶべし。

上部を緩め置くは胸部を壓迫せぬ爲めにして、下部を緊縛するはずり下らぬ爲めなり。

此くの如くせば嬰兒は臀部を以て腰を掛けたる如くせば、上体は稍自由に動し得る樣になるべし。

石の負ひ方は烏渡六ヶ數樣に見ゆれども、少しく稽古すれば他人の助けを得ずして子守の手一つにて容易に負ふことを得るに至るべし、而して子守は毎休憩時間に嬰兒を卸してはゞかり(兩便)をさせ少し遊ばせて再び負ひ直すを以て常に正しき負ひ法とするなり。

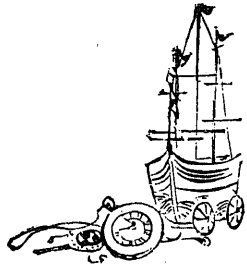
乳の少きを多く出す法

相州腰越　平岩學洋

世には子を持ちて乳の出ない爲めに命の掛代へといふてもよい樣な愛子を自分の膝下に於て育てる事が出來ない爲めにやむを得ずさと子に出し、或は乳母を雇ひて養育するのでありますが、中々自分の膝下に於て育てるやうにはまいりません、實に母親の爲めにも其の子のためにも甚だしき不幸でござります、私は此等不幸諸君の爲めに乳の少きを多く出す新法を御紹介申し升、これは私の明友の細君の兼て實行して共の効を表したのであります。

先づ極上等の餅米二升をいり鍋にて少し煎りまして、其れを挽臼にて細末にひきまして極く細かなる篩にて通すのであります、そふして其の粉を黒胡麻の粉三合と、午蒡種の粉末二合と、以上三種とをよく混合して、更に最上等白砂糖百二十匁を加へまして能く攪拌まはしてこしらへるのであります、用法は毎日三回(朝晝晩)一度に六匁宛を白湯にて内服するのであります、食事の前后何づれにても差支へはなきなれ共、經驗上からば食事の前がよい樣であり升、斯樣に引續きまして用ゆる事三ヶ月間なれば、乳の出でくることだん〳〵

と多くなるのであります、且つ此の法を用ひまして出るところの乳は子供の爲めに宜しくありまして大に其の健康を助けます、



記憶に關すること

松本孝次郎

記憶といふことは一言すれば簡單なれと精密に言ふことは難いことである。普通心理學では記憶の三階段といふことをいふ。これは即ち、把住、復起、再認である。把住は一度經驗したことを思ひ出すまで心に留めて置くことで、復起といふのは覺えた事を思ひ出す事、再認といふのは思ひ出した事は一度自分が經驗した事であると認むることである。

記憶に於て復起と再認と何れか重いかといふこ

とは考を要することである。即ち以前經驗した者をすつかり思ひ出すのでなければ記憶といふことが出來ぬか。又以前經驗した者とは少し異つて居ても之は確に自分か記憶した事であるといふことを認めさへすれば記憶といふべきであるかといふことは六ケ敷ことである。しかし先づ今日では再認があれば記憶といつて宜しいといふことになつて居る。しかし實際再認しても誤りかあれは正しい記憶ではない。

幼兒の記憶は大抵元の通り確に復起することは難く幾分か異つて居る。又再認といふ點に於ても誤かある。即ち自分か經驗したことを確に再認することか出來ぬ場合かある。而して幼兒をして能く記憶せしむるには十分其体を養はなければならぬ記憶の教育法は大部分は体育にまたなければはならぬ。要するに身体を壯健にすることは記憶の豫備的教育である。故に其目的を達するには適當なる方法及品物によつて營養を十分にすることか必要である。而して健全なる消化作用を起させ、血液の循環をよくせしむるのである。學校に於ては生徒の食事の前後の擧動に注意しなければはならぬ。一体食慾といふものは仕事をやめて直には起らぬ者である。故に十二時迄一生懸命に仕事を續けて居てさて十二時になつたからといつて食事に就ても決して眞の食慾は起らぬ、故に食事の前は少し余裕の時を設けて置く必要がある。而して食事の間は勿論談笑して樂しく緩る〳〵と咀嚼して食させなければはならぬ。さて食事後の擧動に付きては如何に注意したらよいかといふに成べく精神を活かさぬ樣にしなければはならぬ。又幼兒が初

めて入園すると以前家庭で常に暖かい晝飯を食して居たのに引かへて冷めたい辨當の飯を食することであるから大に消化器を害し易いのである。其上入園の初めは幼兒不相當に精神を活かすことか多いから注意深い兒程疲勞が甚しく其結果身体に害を受くることも少くない。故に幼稚園でも家庭でも大にこの點に注意しなければならぬ。

右述へた豫備的教育に於ては成べく戸外運動を奬勵し、尚度々の休息を與へることが必要である。要するに一つの勞働をなす内にも疲勞の極度に達するまで勞働を續けさせないで甚た疲勞せざる内に休息をさせ且つ少しつゝ度々の休息を取らせるのが得策である。これは神經の細胞といふものはあり丈の力を出した後には容易に恢復しないが、其迄に達せぬ時は恢復することが容易であるからである。又幼稚園に於て同一の事物に注意させることは十五分を超えてはならぬ。而して幼兒の年齡か少なければ少ない程同一事物に注意させる時間を減しなければならぬ、尚一日中全体の分量は二時間乃至三時間が極度である。故になるべく幼兒が自由に活動する時間を多くするのが宜しい。而して又同し一日の中でも幼兒の活動力といふものは時によつて異つて居る。若し之に注意しないで無暗に色々のものを課する時は幼兒は非常に疲勞を覺えるのである。即ち普通午前十一時から十二時迄は幼兒が尤も疲勞を感する時である。故に此の時間には全く精神を勞せぬことをさせるのか宜しい。又八時から十時迄は精神の尤も活潑な時であるから規律を尚び迅速を要し精密なる注意を要するものは此時間にさせるのが適當であ

る。午後は二時から四時迄の時がよい。又同し時でも模型を示し圖畫を示すときは幼兒の活動力を永續させることか出來る。故に幼兒に話をする時は實物、繪畫、などを示すのがよろしい、しかし專ら感動を惹き起す事を目的とする時は短い時の間に強い注意力を集めて專ら話すことのみなすことが必要である。

以上は幼兒の活動力と時間との關係に付きての原則であるが偶々此の例外がある。即ち夏の日などに於ては幼兒は朝の最初の時間から已に疲勞して居るものがある。それでかへつて一時間の後から元氣を增す樣なこともある。これは家庭に於て先夜、夜を更かし睡眠時間か不足して居る結果によることが多い。故に記憶の惡い人に付きては能く其睡眠時間の如何を聞き正す必要がある。幼兒には十時間以上眠を取らせなければならぬ。ことに冬は永時間の眠りを要するものである。尙斯くの如き點から考へて日曜日は十分幼兒を休息せしめなければならぬ。しかし刺激の多い社會及家庭では日曜日の効力を無にする場合が少くない。大に注意すべきことである。

以上は記憶の豫備的敎育に付いて話したのであるが眞に記憶を增すには此の豫備的敎育が尤も大切である。而して常にこの豫備的敎育か行はれつゝあるかを知るためには幼兒の体量を計ることが必要である。即ち体量の如何は營養の盛なると細胞の活動力の盛なると否とを示すものである。

又精神の方からいへば、記憶をよくするには注意作用を盛にすることか必要である。若し注意力が盛でないために凡ての刺激をよく受ける事が出來

なかつたならば從て把住は不完全となる。只把住が不完全となるばかりでなく多くの經驗した者の關係を發見することが出來ぬ。故に豫備的教育の体育に注意すると同時に注意作用を強くする事に注意しなければならぬ。

以上二つの事に注意した上は同一の事柄を度々繰り返して經驗せしむるが宜しい。凡て記憶は全く注入の過くるのはよろしくない。故に注入は度を過きぬ樣にし、さて注入するには、よく順序を考へてすべきである。記憶には機械的記憶と論理的記憶とあるが、機械的記憶をさせる時は特に同し事柄を度々經驗させることが必要であり、論理的記憶に訴へる方は記憶の順序をよくする事が大切である。而して幼稚園時代には機械的のものが多く活き漸次年齢の增すに從つて概括的に論理的になるのである。機械的記憶をさせる時には多くのものを一度にするのは不得策である。故に成べく短かく切つてさせるのが得策である。そうすれば幼兒の勞力も省け又記憶に要する時間も少ないのである。又概括的論理的に記憶させる場合には記憶すべき主要なる部分と左程でない處とを能く區別して分類し、順序よく注入すべきである。

幼兒の記憶の惡いといふ中には復起することの拙いのと、覺えこむことの拙きとの二種ある。後者は不注意の生徒や、生來精神の活動力の鈍い兒にあり勝のことである。これはこれを教へる方で忍耐力をもつてするより他に良法かない。而してこれには豫備的教育か甚た必要である。又復起の出來さるものは觀念連合の弱いからである。斯くの如きは一種の輕い精神の異狀である。故にこ

れには材料を撰ぶばかりでなく、如何に連合すれはよいかといふことを教ゆるが宜しい。凡て幼稚園時代の幼兒は凡て機械的記憶の強いものであるが其記憶をよく注意して觀察すれは幼兒によつて視覺の記憶の強いものと、聽覺の記憶の強いものと、又筋覺の記憶の強いものとの三種がある。即ち朝飯の時の膳のことを思ひ出せば直に其上に排列せられてある色々の者を思ひ出すが如きは視覺記憶の強いもので、人の聲を聞いて直に其人を思ひ出すが如きは聽覺の記憶の強いのである。しかし幼兒の記憶の普通は視覺記憶である。而して記憶せしむる時に或は實物を以てし或は音聲を以てするなどは各幼兒の性質によるのが適當である。概して都會の兒は記憶することも早く忘却することも、また早いものである。之に反して田舍の兒は記憶することは遲いが又これを忘るゝ事も遲い故に都會の兒には同一物を度々反復させることは必要である。其他筋覺記憶の強い兒は技藝家に適當である。此等各兒の特點欠點は影響する處が少くないから教育者はよく各兒の性質を知つて其短を補ひ其の長を助くる樣にしなければならぬ。

我宿の
花見がてら來る人は
ちりにし後ぞ
戀しかるらん

史傳

大題小題一

山撥鼠の裁判

米溪

ダニール、ウエブスター、父はエビ子ザー、ウエブスター、と云ひ、片田舎に住へる、撲直なる農家の主にして、其の住居の邊には果樹園を有し、培ひ養ふことに心して、長閑かなる月日を送りぬるが、家には鼠あり、畑には烏ある譬とて、此の果園も、其の住居の近傍の穴に巣を構へたる、山撥鼠の荒す所となり、汗と膏とに、切角育て上げし天與の賜も、此の無頓着なる小盜に掠められて、今日こそと樂み、今一日とて熟するを俟ちしものなど、一歩先たつて、彼の賞玩となり終りしことも度々なりき。

ダニール其の頃は未だ十一二歳なりしか、彼の兄エゼキールと共に、如何にもして、此の犯罪者を捕へんものと企て、係蹄を設けて待ちつゝ、案の如く遂に之を得たり。

是に於て、エゼキールハ、直に之を殺して永遠に其の害を除かんことを言ひ出せしか、ダニールは其の捕はれたる動物の樣子の、如何にも温柔にして、而も遂に一言仰て情を訴へんとするも能はず伏して哭せんとするも聲なき樣を見るや、何となく同情の感に撃れ、惻憾の心油然として起り、終に之を殺すに忍びず、再び之を放たんことを主張し、互に論爭し、相讓らず、竟に之を父に訴へて

て、其の裁斷を請ふことゝなりぬ。

父も之を聞くや、誠に興あることゝなし、遂に其の山撥鼠を指しながら、兄弟に告げぬ。

「好し、我之を裁すべし、此に一の囚徒在り、之れ刑事の被告なり、今、之を殺すべきか、將た放免すべきかは、汝等の辯論によりて定まる、汝等夫れ充分其の利害得喪を辯ぜよ？

公判は開かれぬ。辯護士ゝ檢事は互に相對したり。之より如何なる辯論を聞くべきか。……

檢事たるべきエゼキール先づ鋭き論鋒を以て、山撥鼠の獰惡なる天性を有することゝより、從來彼か果園に及ぼしたる大害を述べ、幾多の時と勞力は此の囚奴の爲に費やされしことなるに、今再び彼を放つて、其の生を保たしめんには、更に大害を釀し、剽掠の道を新にすべく、且つ、奸智ありて、出沒の妙を極むることなれば、其の場合に至りて、更に捕へんとするは、到底望むべからざることなれば、今に及んで之を殺すを適當とすることを說き、遂に一歩を進めて、其の毛皮の世に珍重せられて、價貴きものにして、エゼキール自身、巧に之を造り得ることを附加し、假令斯の如くしても、尙從來被りし害の半ばをだに賠ふも難き程、彼の果園を荒すことの甚しきを論じて局を結びぬ。

其の辯論の明晰なる、才幹の横溢せる、强大なる精力あるに至りては、實際之を筆にし、之を紙に述べたるものを見て、吾人が感するよりは、一層精確にして、力あるものあり、蓋し、此の時既に彼が將來有名なる法學者たるべき性格は、大に發揮せられたりと云ふべきなり。

判事たる父は、其の子の辯論を傾聽し、頗る得色あり。是に於てダニールを顧みて曰く。

「ダニール！汝の言ふべき時は來ぬ。イザ其の辯論を聞かん。

ダニール、先つ其の兄の辯論の、克く判事たる父を動かしゝを知るや、彼は其の輝ける大なる、黑眼勝の眼を上げて、其の溫柔なる、憶病氣に見ゆる動物を見しが、囚奴は小さき、挾き箱の內に捕へられて、身の行末も覺束なげに、恐れを以て戰慄せるを見るや、其の心に漲れる全情は、忽ち彼を動かして、雄大の辯論となり、斷然として其の放免せらるべきものなるを論じぬ。

「天の山撥鼠を生ずるや、唯之をして其の生を完くせしめんとなり。烈々たる春和、晴朗なる空氣の內に嬉々として、自由の野邊と、好む所の木の間に、其の生を樂ましめんとなり。獨り彼のみならず。天の万物を生ずる、豈偶然ならんや。人既に生を此の土に寧んじ、万物各其の所を得、山撥鼠亦同じく天惠によりて玆土に生せるもの、誰れか其の自由の生活を拒まんとするものぞ、誰れか其の天與の權を奪はんとするものぞ。況んや、眇たる此の一小獸、固より豺狼の如く、狐狸の如く、自然の序を破壞するものにあらざるをや。彼果して何の犯せる所あるか、唯僅かに數顆の（其も普通の）果物を食へるのみにあらずや。果實何者ぞ、纍々園圃に產する所、而も尙ほ其の數顆を吝まんとするか。吁彼は其の質素なる生活を維持せんが爲に要する些少の食物を涉獵ることの外は、決して何物をも、

オー何處に生物界の秩序を亂せるが如きことあるか。此の僅々數顆の果實こそ、實に彼に對しては、滋味として味はるゝ所なれ、賴て其の生を支ふるなり、以て其の命を得る所以なり、之れ兒供等が食卓に就て其の母の調理せる食物を味ふと、何の撰ぶ所ぞ。

天既に生を彼に賦す、敢て食を備へずんばあらず。何を以てか之を咎むるを得んや、果實の纍々たるは天惠に賴る。理正に園主の幸たり、然り幸たりと雖ども、其の之をして纍々たらしむる以所のもの豈偶然ならんや。園主既に昊天賦與の恩に浴す。彼獨り分賦の惠を受くるなくして止まんや。等しく之れ地上の生物なり、不幸にして口其の正當の權利を主張する能はずと雖ども、何者か數顆を吝むで天意を無視し、敢て其の權利を蹂躙し去るを得るものぞ、且つ試に思へ、此の動物果して其の天性に戻り、自然の秩序を攪亂せるものあるか人こそ却て屢は之をなすにあらずや、彼今果して奈何の事をかなしゝ唯其の賦性に從ひ、害無き其の本能によりて、万物を造る造物者の手より、僅かの顆物を受取りしのみ。

天彼を生ず、彼自から權利あり。之れ所謂天賦の權なり。以て生を保つべく、以て其の食を得べく、以て自由に行動すべし。何者か遂に、之を困め得る權あらんや。

斯く論じて彼は益精力を加へ、其の父兄が已を愛するが如く、其の動物に對して愉快に大切に、其の生命の助けざるべからざるを論じ、聽くもの

をして、自から、若し殘忍自から用ひ、冷靜情なきものにあらざるよりは、必ずや之を放免するならんと豫想せしむる迄に論究し且つ曰く。

「吁其の生や、一度之を絶たば、寃魂遂に再び返すべからず、吁……之を奪ふもの果して其の生を與へ得るものか。吾れは唯其の生命は天獨り之を賦與し得るものなることを知る。

と述ぶるや。年老いたる判事は之れ迄は唯肅として傾聽したりしか、心醉へるが如く、感想不知不識に動き、涙いつしか溢れて日に焦けたる赤黑き頰を傳ふこと數行、彼の眼前に於て、熱心に其の動物を辯護せる少年の、偉大なる未來を想見して、天此の兒に幸して、遂に万衆の儀表に立つべき運命を有せることを知りぬ。

彼の哀憐の情と惻隱の心は、同情と慈悲の心に充ち滿ちたる辯論によりて喚起せられたり。是に於てか、ダニール未だ其の訴訟に勝利を得しとも思はず、熱心に其の辯論を續けんとするに、判事は之を裁斷することをも忘れたるが如く、突然起て椅子を離れ、エゼキールを回顧し、涙を眼に漲らしつゝ曰く。

「エゼキール！エゼキール！其の山撥鼠を放ち遣れ!!!

Every door may be shut, but beath's door.

死の門の他は何れの門も閉ぢられ得へし

文苑

富士山

万里小路通房

ますらをのたけき心にたゝへまし
不二の高根の高き姿は

諏訪忠元

新高のやま高けれとかたちよき
不二には遠く及ばざりけり

相澤求

動なき國のすがたにあらはして
雲ゐにたかき不二の大嶽

上眞行

強力の助もからでいさましの
西のをみな子不二登りする

石搏千亦

白雲を八重ふみさくみのぼりこし
不二の高根に天つ風ふく

山崎房吉

富士のねの高嶺にたちて夏の夜の
さやけき月の影仰くかな

澤弐

天雲の雷の上に神さびて
そゝりたゝせり不二の神山

龜山新一

ふじの根にのぼり見れとも大空は
もとのまゝなる大空にして

諏訪頼國

朝まだき晴れし雲間に聳出て
さやかに見ゆる不二の神山

又原保行

心をも身をもかゝれと思ふかな
雲より高きふじのしばやま

水野清名

雲にかはり雨にかはりて不二のねは

見るがうちにも姿かはり行く　湯川貫一

天雲もいゆきはゝかるふじがねは
山の位のたかきなりけり　松寺久雄

海を拔く一万尺の上ゆ見れば
人の住むあたり雲たち迷ふ　樺山常子

契りにし友は病のいえやらで
我ひとりのぼる富士詣かな　板倉止子

水無月の暑さにいつか雪消えて
あらはになりしふじの姿も　板倉藤子

青たゝみしけるが如き海原に
しろくもうつる富士の大嶽　松平岳子

いひしらぬ富士の高根を朝夕に
打仰くべきわがやどもがな　頭本春子

かよわなる女なりともひとたびは
のぼりみまほし富士の神山　大竹いせ子

ならひなき國のみいつも仰ぐかな
かけずくづれず不二の神山　小林茂子

息杖に岩ふみならし修業者の
足なみ早くみ山のぼり行く　有賀晴子

一なつを暮さまほしき浦わかな
磯松青し遠ふじのやま　關屋愛子

女われのぼらん望思ひたつ
ふもとに仰く富士のかみ山　藤平雪子

天つ少女まそでふりけんそのかみの
かたみぞのこる不二の白雪　慶野華子

男の子ならば登りみましを足元に
雲のわくてふ不二の神山

中村文子

清見がた清き濱邊にさまよひて
あかず眺むる富士の神山

折にふれて

東くめ子

家にまつ妻に見よとて束ねこし
心も色もふかきすみれよ

紅染のうぶきぬはんと手にとれば
まだみぬ稚兒のおもかけにたつ

ピアノ彈く君が手の上にこぼれくる
瓶の櫻はこゝろあるらし

山吹のまばゆき色にあくがれて
道ならぬ道に迷ふ世の人

波と見ん雲さへたゝぬ空の海に
むらがりのぼるのぼり鯉かな

自轉車三首

ひむかし

さくら咲く木の下蔭を君とわれ
自轉車驅りていそぎゆくかな
風を切りて乘り行く我を賤の子らが
早いなあと許りあきれ見る哉

いそぎ行く櫻ばやしに風起り
鬢髮そよぎて落花顏をうつ

月のかげ

つねを

やへも一と重も
葉になつて
みどりいろ〳〵
しげりゆく
さくらはやしの
ほとゝぎす
旅ねさびしき
夕ぐれを

いづこに行くか
ひと聲の
夘のはなづく夜
さやかにも
名のるはつ音の
いとけなく
軒ばいぶせき
さみだれの

ふり來しさとの
なつかしく
なみだは見えね
人知らね

汝こそしらぬ　しのび音に
われも泣きけり　月のかげ

Let parents then bequeath to their children, not riches but the spirit of reverence."
——(plato)

子孫の爲めの遺贈には富を以てせずして崇敬心を以てせよ
（プラトー）

說林

歐米の家庭教育及幼稚園保育視察談（承前）

下田次郎

幼稚園に關する事教育に關する事は此の位に致しましてこれから子供の遊びとか玩弄物の事、それから家の中の掃除の工合、或は動物に對する子供の觀念などに付て申します、西洋では大都會の往來は煉瓦とか木とか叩きで敷き詰めてあつて兩方壁でカラ〳〵で、土も無く大通りの外は木も無

く、子供が往來で惡い事を習ふ、交通は極めて頻繁であつて、良くない事を覺へる、さういふ、子供を公園に遣つて遊ばす考へがある、公園には砂を置いて子供の遊ぶ樣になつて居る處がある、それから池の周りを驢馬に車を曳かせてグル〳〵廻つて居る所もあり、簡單な人形芝居などがあつて乳母やお母さんが澤山子供を伴れて行て見て居る又公園中にカルセルと云つて軸を中心に廻るものがあつて馬や駝鳥の形ができてそれに跨つて子供が廻る、それを非常に喜んでやつて居ります、子供だけの公園はデンマークにもありバデンバデンにもある、ボストンにもある、又乳母が車に子供を乘せて彼方此方歩いて居ります、動物園は日本では柵の中に獅子や象が居るのを見るだけであるが、向ふのは娯樂の場所で音樂もあり子供が駱駝や駝

鳥に乘つて遊ぶ、象に上るには足臺があつて其處へ待つて居ると園丁が案内して代り〳〵乘せる、子守の遊ぶ所もあります、又お伽話を演劇に仕組んで見せる事もやります、例へば日本で言ふ桃太郎の樣なものをやつて子供に見せて居ります、それから向うではクリスマスの時は大變贈物を致します、其時は玩具屋は有るだけの廣告をして斯ういふ玩具があると云ふので目錄を呉れます、日本では民間で賣る玩具は昔から傳來のものもあつて子供のドウいふ時期にはドウ云ふものが適する、心のドウいふ働きにはどんなものが適するといふ樣に玩具に付ての考へは進んで居ないので漠として居るが、西洋ではさういふ所から割出してよくできた物がある、日本でも玩具の展覽會と云ふものがあれば宜いと思ふ、それで巴里に居る時玩具

の展覽會がセーヌ州廳に開かれて種々出品があつて互に研究をして居りましたクリスマスの時は子供に應接室厨屋寢室部屋等皆な出來た家の模したのを呉れることもあります、それから物を貰ふ時に禮を言ふが、向うでは人を區別して居りますから例へば子供が貰ふと子供は禮を言つてもお母さんは禮を言はぬ、これは子供の所有であると云ふ觀念が頭に這入る、日本では子供の貰ふたるはお母さんの貰ふたものと云ふ樣になる、玩具では汽車、鐵道、橋、燈臺など皆な出來て居る、人形では羊なり牛が出來て居て首を曲げれば鳴くと云ふものあり、人形も寢かすと目を閉るとか餘程發達して居る、これは（目錄を示し）御參考の爲めの人形其他の玩具の目錄であります、

次に家の方の事を申しますと洗濯をする日と、掃除をする日と極まつて居る、日本では朝バタ〳〵掃ふが西洋では金曜かと思ふ、其朝は下女が窓を拭き室内を掃ふ、洗濯は月曜日に多く取りに來ると思ふ、洗濯物は月曜日まで溜めて置く、又下宿屋の婆さんが何時教育を受けたか我々が恥入る樣な衛生上の考へを有つて居るのである、飯を食ふ時は前にナツプキンを置き汚れを防き、毎日又は月に數度取かへますが日本ではさういふことはせぬ、其代り西洋人は湯には能く這入らぬ、日本人は小い衛生に注意して大なる衛生に注意せぬ湯には這入るが洗濯は割合に不行屆の所があらうと思ふ、それから日本では此處が（胸を云ふ）能く合はぬ、それで日本では風邪が多い、子供は鼻汁垂れが多い、西洋には滅多に子供の鼻汁垂れは見ぬ、と云ふは咽喉の衛生が能く行渡つて居るから

と思ふ、又散歩などは家内揃ふて總出で子供を車に載せて細君も伴れ立つて行くが普通である、旅行でも一家族皆な行くと云ふ樣な工合になつて居ります、日曜なればお寺に行き御説教を聞くのである、日本ではお寺の説教聞きに行くは婆さんか爺さんの役目の樣に思ふて居るが、向ふでは若い者も聞きに行く、日曜は着物を着替へるが例である、日本では國民の大体が信仰して疑はぬと云ふ主義がない心々に信心を異にして居る、非常に亂雜であるけれども西洋ではばゞ耶蘇教が統一して居る、子供の時から乳汁を吸ふ樣に吸ひ取つて仕舞ふ、それから流行と云ふものは日本では賤い婦人が始めた事が往々上流社會に移る、上流社會のお嬢さんが卑いものゝ風をすると云ふことがあるが、西洋では流行の本は上流社會にあつて、

それが賤業婦人に移つて流行がお仕舞であると云ふ、又一体子供でも嘘を言はぬ、日本の嘘と西洋の嘘は質が異ふ、日本では嘘の害になることが多い、西洋では利害の關係になると嘘を云はぬ、日本では何時に集まると云ふことでも二時間も後れて行く、それから例へば人が來て歸りしなに又お出でなさいと云ふ、お出でなさいでないけれども さう言ふ西洋ではさういう事を云ふと子供などは正直であるからそれでは何時來うかと云ふ、要するにモツと誠實でなければならぬ、カーライルなどは英雄の眞相は誠實である、眞心からするが英雄の英雄たる所であると云ふて居るが、日本では其日々々である、家庭でも父母の言か一致せねば子供は何方に附いて宜いか判らぬ、自然嘘を吐く樣になる、

それから西洋では往來に菓物があつても取らない、又ロンドンのイングランド銀行など賑かな處に植木鉢の花がある、それを一寸も取らぬ、日本の盜賊と西洋の盜賊は種類が違ふ、日本のは往來の物などを盜む皆なの迷惑するを構はぬ、西洋ではさういふ事はない、公衆の妨害になる鉄道を破壞するとか、電信を切るとか云ふことはせぬ、盜賊にも公德の觀念に發達の違ひがある、

それから動物虐待の事であるが日本は實際やつて居る、毛蟲ならば殺せば宜いが灸をすへて殺したりする、又溝に鼠が居れば寄つてたかつて石を投げる、さういふ事は西洋では少い、亞米利加に行くと栗鼠が澤山居る、底豆をやると來る、大學の庭にも栗鼠が居て人の肩から木に宿ッたりする、日本では見附け次第に殺すとか石を投げるかする、紐育には動物虐待に使ふた道具であるとか、殘酷な事をした物を陳列してある所もある、日本では鰻鯉の生作りがあるが西洋にはない、あれも動物虐待の一つである、さういふ事も幼稚の時から止めて慈愛の心を發達さすやうにしたい、

又女の嗜み、日本でも西洋にない茶、生花があるが、繪畫彫刻には素人が多い、何を見ても善いか惡いか判らぬが、西洋では中流社會以上で音樂を始め繪畫彫刻に對して趣味のないものはない、又日本では女子は學校卒業から學力が進まぬ、それは學校以外に博物館などに行つて見ることの機會が少ないのみならず講習會其他の集會などがなくて進歩せしむることが出來ぬ、今後はさういふものをドン〳〵作つて卒業後も進む樣にせねばならぬ、向うでは雜誌なり何なり轉讀する方法もあ

ります、又不仕合せな者を入れる養育院とか種々の慈善事業がございます、要するに尙ほ日本に於ては女子の方の教育に餘地が幾らもあるのであります、幼稚園の方は專門でない故に御參考になるをも申されませぬが、幼稚園は教育の初めでありますから、三歳子の魂百までと云ふ大事の時に基礎を作り上げて他日立派な紳士淑女を出すようにしたいものでございます、進んで小學校それ以上の學校でも西洋にあつて日本にまだない良い事は追々採用して日本の女子教育を完全に近い域に成るべく早くしたいと思ふのであります、今日は一向纏まつたお話が出來ませぬで、折角の會でありましたけれども唯こ心に浮んだ儘を秩序なく申しましたのでお聞き苦しうございましたらう　（完）

四十八

衣食住と体育との關係

井口あぐり子

此間清水さんから私に今日此の會に出て何か話をする樣にと云ふことの御話がございましたのでございますが、私は亞米利加に三年居りましたけれども、御恥かしい事には幼稚園の方に關する事と云ふものは一向存じませぬと云つても宜い位なものでございます、時々は拜見もしたこともありますけれども氣を留めて參觀に參つたのでもございませぬ所から何も幼稚園の方に關係することは一向存じませぬから御斷り申しましたけれども、幼稚園の事でなくとも何でも宜いから話をして呉れる樣にと云ふ御話がございました、私の見るとか聞くとかしました事は重もに体育の方に關係することばかりでございますから、それでも宜けれ

ばと申しますとそれでも宜いと云ふことで、今日「衣食住と体育との關係」と云ふことに就て此に出て御話をすることになりましたが、一寸一時の假りの題でござりまして私の御話申上げますことが彼の範圍の事もござりませうし、夫れをこえて種々の附たりの御話が多くなるかも知れませぬ、皆さんに御目に掛つて御茶でも戴きながら御話をする積りで申上ぐるので六ケしい事は私にはとても申上げられませぬのでありますから其の御積りで願ひます、

私が向うに參ります時亞米利加は男に限らず女に限らず体育は盛んであると云ふ事を承つて居りましたが向うへ行くと豫想外に盛んでありますので、これならば人が種々騒ぐも無理ならぬ事と思ひました、殊に女子の方の事に就いて重もに目を留めて見たり聞たり致したのでござりますが、只今の日本の女の有樣と比べますと雲泥の差ひがあると言つても宜い程であらうと思ひますが一体日本でも只今の所は此の四五年あとでござりませうが私の向うへ參る時分から少しは女子の体育に人の氣を着ける樣になりましたが、私の參りますまでは女子体育などはさう喧ましく言はれぬ時でござりました、それで先づ一番に目に着きましたは日本で云ふ中年以上四十歳以上の女の方が若い方と同樣に雜つて一緒に運動をする有樣でござりますす、それが私は驚愕りした一つでござりまして、はしめての時は何んだか狂氣じみて見えましたのでありました併しさういふ樣に体育の盛んな所からでありませうか人が皆な元氣でござりますす、皆なが活潑でいくつになつても進取の氣象がなくな

らぬことでございます、即ち其の證據には私の知る人に七十歳以上の老婦人があつてそれが獨逸語佛蘭西語を稽古して一週間に何度となく語學の先生に通ふ、私等の考へでは片足棺桶に入れたと同樣の者が獨逸語や佛蘭西語を稽古して何になるかと思ひますが一般にさういふ氣象であるのでありました この樣な方々が一方には殊に体育に氣を着けて居られます身体の健康に氣を着ける處からさういふ進取の氣象も衰へぬことであらうと思はれました、一体に小い時から幼稚園或は尋常小學校あたりの時分の元氣の氣象が老年まで續いて居ると申してもよう御坐いますが、それは詰まり身体に就きての注意がよく行き屆きて身体の丈夫な所から精神が衰へずに元氣を持つて行く事が出來るとであらうと考へたのでありました、一体々育と云ふことは今此で改めて申すまでもなく範圍が廣い事でございますが、ザッと分ければ運動衛生でございませうが、運動の中には体操と云ふ規則正しい運動と、遊戯とか散歩とかいふ規則立たぬ運動もありませう、世の中の人は一寸した人は間違へまして体育と云ふと直ぐ体操と思ふ人があるが考へ違ひで運動とモウ一つは衛生でありますから、衣食住に關係する、其中分つて言へば重もに運動と云ふ方が規則正しい方の体操とか、規則正しくない（或は正しい内に入れても宜いかも知れぬ）遊戯、これは學校で教育して行く時に直接たつさはる事業、衣食住は學校でも關係せねばならぬが重もに家庭でして行かねばならぬこと、思ふ、尤も兩く相待つべき者で、一方が一方を顧みぬ樣でもいけますまい、それで運動と云ふことは

日本でも學校でも二三年此の方氣を着けて、大層喧ましく研究になつて居ります、併し之を向うの亞米利加あたりの有樣と比ぶれば日本は肩を並べらるゝ所の話でない足許にも行かれぬと云ふ考へがあります向うの有樣を一寸申せば幼稚園の方は餘り喧しく規則立つた体操などは致させませぬ、日本の樣に遊戯の中に自然に体力を發達させることを重もに致して身体を丈夫にさせる樣にしますが尋常科の一年あたりから体操は這入るのでありますそれから女は尋常科高等科を卒業してから高等女學校などに這入り、それから大學に這入りますが尋常一年から大學まで續いて致します体操は徒手体操に加ふるに機械体操、これは學校に依つて式があつて或る學校は瑞典式を爲し、或る學校は獨逸式或は亞米利加式といろ〳〵ちがつた式の体操をして居りますが何處の學校でも徒手体操ばかりでない、手足の体操の外に男の体操の樣に綱上りとか梯子上りとかいろ〳〵の器械をしますつまり男の人のするも女のするも一樣であります、學校の生徒の時は勿論、中學校大學を卒業して後もそれで体操は全くせられぬものなどいふ考は少しもありませぬ体育に心を用ふる人は幾ら年を取つても、種々体操を敎ふる學校がございますから其處へ行つて白髮の御婆さん抔が若い人と一緒にやつて居ります、勿論奥さん方の晝の行かれぬ者は夜行き、晝の中でも一定の時間を設けて体操の學校へ一時間二時間行つて居る、又敎員とか或は勞働する女とか工場に出て居る樣な女などでも矢張り一週間に二三度位大抵夜食後から体操學校に行つて体操を稽古するのでありますが矢張此等の

女子でも手足を動かすばかりでなく器械を用ひてする樣な事があります、それは体操の事ばかり申したのでございますが、右申上た樣な小學校の尋常科より大學まで通はして体操を重く見るのみならず學校外のものでもドウかして時を拵へて規則立つた運動をする事に氣を着けて居る、それから規則立たない方即戸外の運動とか遊戯になりますと種々の種類があつて學校の生徒などでは自分の學校でする体操の外にまた十分致します、遊技の方では競爭的に驅ける事や玉を投げる抔が主でありますが其場處は一の町ならば町、村ならば村に設けてある即ち共同運動場で其處には器械もあり教員も居る、大層準備して居て學校の生徒も行きますし又家事にたづさはつて居る者なども其處に行つて運動致します、冬は氷すべりがあり春になるとゴルフと云ふ遊技があつてそれは向うに大層流行つて居る、それから自轉車乘り、ロンテニスといふやうな事をやつて居ります、唯々つまらなく家の中で暮すよりは外に行つて身体を動かそう、日光に當つて來やう新鮮な空氣を吸ふと云ふ樣に心がむいて居る、この樣に學校で世話をして体操をさせる遊技をさせる外に凡べての人、自分自身に年を取つた者でも若い者でも皆熱心にすゝんでするのでございます、然るに我邦では昨今体育にはよほど意を注ぎ學校でも女子の生徒にも喧しく言つて体操遊戯などを熱心にする樣に奬勵して居ることでありますからこれから學校の中に居る女學生などは今までの者よりも体育を大事にすることになりませうが學校内に居る時ばかり大事にする氣があつて學校を出ればさういう事は

入用がないと思ふのか、又入用がある事を知つて居てもする事がいやとなるのかどうか知りませぬが其後は忽ち打ちやる有樣であります、學校の生活をする時ばかりでなく、人の妻となつて家事を執るやうになつても教師となつてそれ〳〵教職に從事して行かねばならぬことになつても夫を打捨てぬやうつまり外國の者の宜い考を取つて行かねばならぬと思ひます併し日本の有樣で言へば場所がないと言へば口實になりますし人に笑はるゝからと言へば又それも口實になります、只阻害されることばかりで少しも奬勵の道が立つて居りませぬ故、仕方がありませぬけれどもそれが教育に從事して居る女は奮發して今までの弊害を破り出來る範圍内で實行して行くことが必要であらうと思ひます、

其次に申上げたいのは衣食住の事であります、これは全く向うとは異つて居るのであります体操とか遊技とか云ふ者は學校の一の學科となつて居ますから學校で奬勵して行きますれは自然と改良進歩の點に向て行かぬをもありませぬが、モウ一の衣食住の事になるとこれからドウ云ふ樣にして行けば宜いであらうドウ云ふ樣にすれば体育に都合よく益を與へる樣にならうかと云ふことは大變六ケしい問題であらうと思ひます、日本の今の樣な衣食住の有樣でありますれば、ドンなに學校で体操や遊戯などを喧しく言つたところで、幾ら運動せよと云つて奬勵した處で迚もいかぬと思ひます第一衣服でござりますが、これは近頃幼稚園小學校あたりで衣服の改良が喧ましくありまして他の幼稚園は見ませぬが此處の幼稚園を見ても筒袖に

袴を穿いて居らるゝ、小學校の尋常科になつても さうでございますし、此頃一般東京府下の生徒は 筒袖や袴が制服の樣になつて教員始めさういふも のを召されると云ふことでございますが、誠に結 搆な事で今までの長い袖に袴を着ぬ時よりは遙か 宜いでございませう、第一胸隔を狹める一の原因 になる袖の目方を減して臂の運動の自由を助け、 脚部が現はれて運動の爲めにでく都合のわるいの を袴で以て隱くされますので今までよりは脚部の 方の運動も多少自由になつたのでございませうけ れども、それがまだ〳〵全完無欠の服裝といふ 所まで行つて居らぬと思ひます、ドウ云ふ風に改 良して宜いかと云ふことは非常に大なる問題で、 これから女の考へて行かねばならぬ大事のことで あらうと思ふ、もし筒袖に袴といふ服裝は日本の

ドウ云ふ場合でも着て行かるゝとすれば學校の生 徒ばかりでなく一般の女の方々でも勸めやうに依 つて着られぬことはありますまいが、只今の所で は恰好が可笑い、當り前の着物に袴はまだ宜いけ れども年を取つた人には筒袖に袴は見た所が誠に 可笑い、夫故規則になつて居りでもすれば格別、 自由にすれば着たがらぬ夫故學校の内だけの小い 子又は教員ばかりにのみ用ひられて一般の人には 用ひられぬからいけませぬもし人が勇氣を出して 奮發してさういふ着物を着て搆はす學校のみでな く他を訪問する時でも用ゐるといふ事になりませ んければいけますまい併しまづ暫くの間は筒袖に 袴といふ事にしておき他日今までの優美と言はれ たものに代るだけの物が出て來た時に一般に代へ らるゝのであらうけれども、それまでには時日が

あると思ひますが是も矢張り教育に從事して居る者が先きになつて見ともないとか可笑いとかに攝はずに世の中の人の先きに立つて改良せねばならぬものは改良する事にしたら宜しかろうと思ふ、私は米國に參りましてから衣服の改良と云ふことが大層やかましく日本の雜誌新聞などに御座いまして或は經濟の點、或は美術の點からいろ〳〵との御說があつた樣に拜見しましたが歸つてから一二人の改良服を着た方を見たばかりでございます我邦では婦人の衣服の改良など云ふ事も多くは男の方から仰つしやることで女の方からあまり進んでしませぬから、一寸アレコレといふ說が出ても遂には實行が出來ずに立ち消えになるのでありませうからドウか私共女が先きになつて日本の婦人に適當な着物を拵へ出すと云ふことにしたいものであります、殊に恰好ばかりでなく、日本に歸つて感じたは三四年前より大變贅澤になつて居はしないかと思ひます、向うの中等の生活の者と日本の中等の者とを比べて見ますに日本の方が着物が贅澤に過ぎぬかと思ふ、私はむかふの大學の教授の處に寄宿して居ましたが此家の生活はあまり裕かでございませぬがまづ中等以上と云つてもよう御座いませう、其の奥さんの衣服はさう一年に幾枚も出來ると云ふ事はありませぬ冬になれば一通り位出來るといふ樣なもので餘程質素なものでございます、其處の家の子供は十四五、其次に十歳位の女の子がありましたが絹の着物などは一切持ちませぬ、教會に出る時の着物が夏、冬、其時節々々一通りあるばかりで日本の子供の樣に幾重ねも持つて居ませぬが其の着物の事に就てはほし

いとか買うてくれなどいふ事は一寸も言ひませぬ小い男の子も夏は夏の服、冬は冬の服一組づゝ整へ古いのは教會の手を經て貧乏な者に遣るのでございます、日本で目下中等の者になると何度も同じ物を着られぬとか云つて金を掛けていろ〳〵と拵へる、それが子供にも移つて贅澤の着物を着せるやうになりますから子供も着物に氣が移つて十分思ふ通りに運動の出來ぬといふ事になるであらうと思ひます統計を取つて外國の着物と日本の着物とを比較しては申されませぬが、一寸見た所ではさういふ感じがございます

それから食物は日本の仕來りがございますし經濟が許しませぬから外國の人の樣によい食物をたべる事は出來ませぬでしやう、むかふの人は肉食を餘計するので三度に三度肉を食べるといふ風で比較上着物より食物には遙かに金を掛けるやうであります、私がむかふで大層富んで居るといふ家に行つた時でも中等の家に參りました時でも食物に於てそう異りはございませぬ、尤も咖啡でも善い惡いで値が差ふし、肉の中にも善し惡しがあるかも知れませぬが私共には左程著しきちがひは見えませぬ即ち日本では善い着物を着る即ち外形を飾る爲めに粗食致しまするし向うは外形を飾らずに身体の營養を致す食物に氣を付けるそういふ點は大層異る事で日本人もこれから大いに考へねばならぬことと思います、幼稚園の方はよく存じませぬけれども小學校高等女學校の生徒の辨當といふものが近頃私の注意を惹きました事でありますが、之を向うの人々の辨當に比べましたならば誠に少量のものであります向うの子供はパン肉菓子

果實牛乳まで種々の物を持つて參りまして其の辨當を食べて居る處を見ますと、まことに嬉しさうにゆつくりとお互に靜かに談話しながら食べて居る日本では婦人は大食は醜いとか下品とかといふて食べたいものもたべず小食をよく自慢して居りますのであります、一體過食といふ事は決してほめべき事でありませぬが見えのみを飾りてお腹を空かして居るのもいかぬと思います殊に体操とか運動とか云ふことを奬勵する事でありますればなほ又食物が好くないといけませぬ、もし身体の本を拵へる營養が即ち食物がよろしくなければ運動とか强い体操は却て害になります斗りで決して益になりませぬ、好い食物を食べ身体の營養を宜くし其上で運動をよくすればこそ身体の健康の度も進みますが唯々れ茶漬ばかり食べて居る樣な者に無理に運動をさせる樣な事は身体の組織を崩すばかりで何の益にもなりませぬ故に一方に体操遊戯を勸めるならば一方に食物を好くせよと言はねばならぬ、從來漢學教育の餘習粗食して勉强するといふ事が大層よろしい事になつて居りましたが、今日の如く頭を使ふ事の多い世の中ではとても成り立つものではありませぬからその樣な考は一切捨てゝしまひ子供の時分から食物に氣を付け一方に運動をすゝめて行かねばならぬと思ひますそれから家屋の事でございますが、これも一の問題でございませう、自分の例をあげて見ましても向うに居て西洋風の家に住むのと日本に歸つて日本の家に住むのと大變心持ちがちがひます即ち日本の家では一体の事に不精になると云ふわるい習慣をつける樣であります例へば寒い時に坐つて火にあ

たるも立つのがオックーである、取つて見たいと思ふものがあつても止めるといふ事になりますが腰を掛けて居れば少しもそんな事がなくサッサッと出來ます此樣にすわるといふ事が不精にするのみならず今までの日本人の脚部の發達の不完全な本を拵へて居るのも家屋でないかと思はれます日本人は一般割合に脚部が短い、此頃三宅醫學博士が書かれたものを讀みましたのに胴と脚部と半分〳〵ならばまた宜いが、人に依つて胴の方が脚部より長い者があると云ふことが、御坐いました向うへ行くと（自分の身体は見えぬが）日本の人と向うの人と並んで立つて居るのを見れば胴の長さはさほど差ひませぬが脚の長さが大變差います且つ日本人は滕頭から下の方が内に曲つて斯ういふ（手眞似）恰好になつて居る人が多い、女の人には

内八文字が殊に多い、これは外國で見られぬことで、却て外八文字の方が多くあります畢竟我國では小い時から坐つて居るから弓の形ちの樣になり脚を伸ばしても膝の所が着かぬとか、膝の下が明くが多いとか云ふをでありますがもし西洋の樣に腰を懸くる事になりましたならば血液の循環も宜しくなつて自然の發育を妨げられず且つ其關節も天然自然の格好を妨げらるゝことはなくなりませうと思ひます然らば何もかも向うの樣に變へるが宜いかと云ふにまたなか〳〵其樣な急激な變化は出來ませぬ、只今では學校官省くらゐが向うの樣に腰掛、椅子になつて居りますからまついくらか喜ぶべき事でありますがもし普通の家屋でも是から新しく建築せらるゝといふ事でもありましたならば疊や床の間の飾りとか云ふ事に贅澤に金を掛

けるよりは其經費の一端を以て椅子卓子のやうなものを備ひつけて行くといふ事になりましたら今までの樣な發達を妨げることが多少なほる事かと思ひます出來ぬ〳〵と云へば何時までも出來ませぬから幼稚園あたりから教育を受けて行く子供に段々吹き込んでおきまして他日即ち二三十年の後でもよろしいから其の方の考へを取つて改良する樣な事が出來ぬでもなからうと思はれます

モウ一つ附け加へたいは幼稚園の先生などは自分で自分の年齡をお忘れになつて子供の境遇になり子供と一緒に遊戯をして居らるゝことでございますから改めて申上げる必要もないかも知れませぬが、其上の小學校、女學校の教師となる人は生徒と教師との考へに甚しき懸隔が出來まして生徒に遊技をせよとか体操をせよと云ふことを云つても只口だけで自分が卒先してやる方が少ないやうに思はれますそれが今日此頃の小學校女學校あたりの女生徒に体操を嫌はすとか進んで運動をせぬとかいふ一の原因になつて居るのではあるまいかと思はれます殊にこれまでの体操の先生は男の方ばかりで女の人は餘計たづさはつた事はなかつたのでありますが若し此後体育が入用である体育は身体ばかりでなく精神上に非常の關係を有つて居るものと云ふことが分つた以上はこれまでの女子の身体で決して滿足すべきものでないと思はれます

この樣な事を通常一般の女に言ひましても只狂氣じみた事の樣に思はれ採用にならぬは當り前でありますが、教育に從事せらるゝ方々が自分と卒先して盡力になり、これから家庭で教育せらるゝ方でも學校幼稚園で教育せらるゝ方々でも其の御積

りで子供に仕込んで下さつたならば今までよりは精神の快活な身体の確かりした丈夫な女が出來るであらうと思ひます、餘り長くなりますから先づこれだけにして置きます、

（了）

殘りなく
散るぞめでたき櫻花
ありて世の中
はてのうければ

雜録

花のかたみ

春漸く老いて何處よりともなく散り來る殘花數片。將に今年の告別となすに當りて殘し去りたる紀念數葉。そも何事をか記せる今や瀕死の花必ずや良き言あらんいでや茲に寫して諸姉と共に讀まんかな。

さても無情の世の中にて候　一年振りに御目にかゝりやれ嘻しやたのもしや、いざや昨年御別れ申して以來の事柄承はりもし申しも上げんと思ひしは昨日今日と存候に早くも落花の今日と相成申候。

殊に當年は風伯樣雨神樣にはつれなくも少しの御思ひ遣りも玉はらで此のはかなき一生を思ふがまゝになやめもし苦しめもせられ申候。爲に遂に心の中打ち明け申さんものとの兼ての希望も今は皆水の泡。さりとて此の儘に御分れ申すも餘りに殘念に候へば、切めてはと茲に一書を書き殘し候まゝ御一覽下され候はゞ幸榮之に過ぎず候。

思へば「敷島の大和心」と歌はれしは昔の事、爾來とても一向變りなく年々春風樣春さめ樣に誘はれて此の世に參り候皆樣には年々に御姿をかへさせられ、中にも彼の歌の主樣の如く早や幽明所をちがへさせられし御方も多く有之候、舊知は歳々にうせられて初對面の御方のみ年々に多くなりもてゆき今は昔を語るに友もなき有樣心細さの程御推察下され度候。

さても嘉永の昔、浦賀灣頭黑船の一發に驚かれし時は思か、近くは日清戰爭以來の有樣もなかなかに變はり申候、國運は非常の進歩にて昔には共に齡してくれざりし歐米の各國も、今は種々の方面に於て競爭する次第誠に妾までも何となく肩巾廣く感し申候、是とても皆樣の御力に依る事と感謝の至に堪えず候。

併し之に伴つて皆樣の御覺悟遊はさるべき點も決して鮮なからざるべしと信し申候。身の程も知らで斯かる事申上くるは嗚呼がましき次第さぞや片腹痛く御思召さるゝ事とは百も承知致候へ共さりとて思ふ事言はぬは腹ふくるゝ業とかや且つは永年の御なじみ申し上げざるは御恩に對するの道にもあらざるべしと存じ候まゝ茲に愚見を陳し候段不惡御了承之程祈上候。

想ふに國土を異にすれば各特有の風俗、習慣、氣質等はあるべく又之を保存すべきは勿論に候へ共特有のもの必しも善きもののみとも限らず、且つは世の進運につれ社會の發達に應じ矯正改良すべきの點は多々之あるべくと存候、殊に長足の進歩をなしたる我國の如き必ずや其の必要一層のものあらんと存居候、承れば近時風俗改良會とやら申すもの御設けられ候由誠によろこばしき次第に候、吳〳〵も完全に成功せん事を希望仕候、何かと申し上げ度き事澤山有之候へども今は最後の期の迫まりたるにや、はや吐息さへもくるしく相成申候へば、飾り氣も何も打捨て〵短刀直入茲に申上ぐべく候。失禮の段は幾重にも御免し下され度候。

其一　皆樣には過ぎし封建時代の氣風として不生産的の事業を學び實業を賤しみ玉ふ風有之候今日の學生社會を見ても明らかに候、文學科學の學理に走する人多く、實業的の學校に學ぶ人の少なきは事實に候。都大路に塵埃蹴立て〵駟馬駟る人の花やかなるよりも北風荒む野に立ちて鋤鍬にいそしむ野人の見る容なき方國家必要の人物と存候。今や國民としても個人としても實力を要する時勢に際し候て斯る氣風のあるは實に大に憂ふべきの至と存候。

其二　貯蓄心は我政府に於ても頻りに御奬勵遊ばされ居る樣子に候へ共諸外國に比べては未だ頗る幼稚のものと承はり候。尤も此の事は勤勉と共にならべ行はれて一層の効ある事に候。嘗て聞き及び候中に次の話有之候誠に味ふべき詞と存居候

「乞食貯蓄は駄目なり宜しく御初穗貯蓄なるべし」

とこれは世の人々の貯蓄をなすには何れも剩餘を以てし若し之なければ致さざるを批難せられー事とて彼の神佛に御薦め申すと同しく其の收入の初めに於て其の幾分を御初穗として貯蓄せよとの事に候（未完）

胡蝶の新入學

長野　故　飯島八千溪

今日は、長女胡蝶が初めて入學する日である、父兄付添うて午前九時に出校せうと云ふのであるから、一つ自分で連れて行て見よーと、時間前十分計りに出頭して見ると、校門に男女の受付を懇に案内してある、左切石傳いに女生徒の受付に出ると既に八九人居る、受付にわ二人の男教員が笑味を湛えて就學届を繰出して居る、何分付添人が順番に從わず先を爭ふので、受付掛わ非常に多忙だ未だ届けませぬが何分ふ願い申すと云ふもあれば未だ年齡わ足りませぬが來たがるから堂ぞふ願いと云ふもある、先生が一々理解さるゝよーに說明につとめらるゝが稀にわ隨分わからずやもある、町名を問われて小雪小路と云ふもれば、五軒長屋だの、職業わ何もない、毎日餘所え仕事に行きますなど云ふ哀れなのもある、名わ實の賓とも云えば其の子の爲めに令名を擇ぶわ親として尤なことであるけれども、女わ何處も女らしいがよい、即ち、女文字とさえ稱えらるゝ平假名があれば夫れで書いて置くが最も適當だと思ふ、左に記したのが、何れが男で何れが女だか直に見分が付きましよーか、自分が子の名も假名で書くべかりしといたく悔いた。

薫(女)　薫(男)　基(女)　元(男)　幸(女)
孝(男)　嘉禰次(女)　鶴司(男)　久(女)
久(男)　雪(女)　龜(男)　一二三(女)　七五三
(男)　美香(女)　敏(女)　敏(男)　功(女)
功(男)　イ(女)

就學屆に卅九番と記された、誘導掛の徽章掲けた二人の女先生がサー堂ぞ此方えと閑雅に懇に胡蝶の手を執て連れて行て呉れる、後に付き行く親心の嬉しさ得も云われぬ心地がする、試驗所の札貼た室、堂ぞ此室へ御順にと云い置いて誘導掛わ去た此室にわ、女先生が三人して愛嬌を滿面に漲らして子供の試驗をして居る、其の子供の答が誠に無邪氣で罪がないのみならず、實に意表で成程子供わ斯の如きものかと、自分ながら自分の子の直打を今日初めて知た、今胡蝶の答を書き並べて見れば實に次ぎの如くである、

教師の問　胡蝶の答

あなたの名わ　お嬢さん
外にわないの　胡蝶さん
お父さんの名わ　ちやーさん
お母さんの名わ　かあちやん
胡蝶さんのお宿わ何町わつちの遠くの方
お年わお幾つ　八歳
八歳とわどれたけ　これだけ(指八本)
之數御覽なさ(球十個)　一っ二っ三っ七っ九っ十っ三っ七っ五っ
六っ出して御覽なさい　これだけ(指四本)
これわ何ですか(口)　くち
何にするものですか　たべるもの
これわ(鼻)　はな
何にするものか　かぐもの

何にするもの（目）　あくもの　見るもの
之わ何にするもの（耳）きくもの
之わ何ですか（土瓶）　鐵瓶　藥鑵

發音

ランプ　ダンプ
座敷　じやしき　だしき
火箸　しばし
さつまいも　さつまえも

色

白、黑、赤、紫、黃、青の外わ答えられなんだ、他の子供にも往々胡蝶に似たものも見えたが、又よいのも中々多い、中にわ一つも誤らない者もある、側に見て居る親々わ氣が氣でない、氣なしの親わ意地れて片端から敎えて仕舞ので、先生の苦心わ水泡に歸するものあり、或わ其子を叱呵るもあり、泣き出す子もあれば、婆々の袂に縋り顏を出さぬもある、流石わ敎師だ、其れを根氣よくどうかこうか釣り出して饒舌らせて見る、

私の側に居る婆々さんの娘が勢わ小さいが臆面せず正確な答をする、聞いて見ると、子守と毎日子守學校え來て居るから、よく學校馴れて見馴れ聞き馴れ彼迄になつた、今日日わ子守まで敎えて下さる有りがたいをだとの話であつたが、子守學校わ獨子守の爲めのみならず却て其の幼兒の爲めに大に必要であると悟つた、

胡蝶の試驗わ終つた、計方も雜問も發音も皆丙であつた、堂も一人子わ兎角愛に溺れて敎育を誤り勝だ、次の室え廻わると爰わ判定所とて、生徒の組分けが爰で定まるのだそーな、一人の男の先生が惠比須の樣な圓滿な顏して生徒の氣合を見つゝ

種々質問される、矢張答が面白い胡蝶の答を擧ぐれば

茄子の繪を示さる　おなす
何處に出來ますか　畑（生徒中にわおすさんの籠の中にと云ふもあつた）
鯛の繪　おさかな
何處に居ますか　おさかなやに
椿の花　おはな
何處に咲いて居ます　お堂に（善光寺の庭に實り居れば也お堂は善光寺のと）

胡蝶わ判定の結果、櫻の組と確定した、爰にも亦誘導掛が四五人居られ此方えと導かるゝまゝに、從ひ行くと、教室の入口に立派な櫻の繪が掲げられて、室内にわ種々子供の心目を娛ましむるよーに仕組である、受持の女先生が居書と本人とを引合せ、家庭の有樣、胡蝶日常の樣子等を詳しく問われた、八九人の生徒が溜ると、先生が愛の化神

かと思わるゝ計りの面を此方に向け、皆さんわ大そーお行儀の美いお子で居らつしやいますを、私わ今から皆さんのお友達になるので花野かはると申します、今日わ皆さんよくいらつしやいましたを、ドレ皆さんによいものを一つ見せて上げましよー……ア猿々猿だ〳〵ソー皆さんわ何處で御覽でしたか、お堂〳〵チーお堂に居たねー、皆さんわよく知つて居ますを、何をして居ましたか、お獅子舞つたー芝居踊たりする……、之わ何ですか、かに〳〵〳〵夫わ〳〵八ケ間敷ものだ、何處に居ましたか、在郷の叔母さん處に、溝川に、と思い〳〵だ、皆さんわよく何もかも知ておいでゝ山いますを、明日亦來なさると猿蟹合戰の面白いお話や美しい繪なと澤山見せて上げますよ、皆さんわ、大そーお行儀よくして居らつしやいまし

たから御褒美を上げましよーと、饅頭一包と家庭心得一冊とを呉れましたので、子供わ踊立て喜んで居る、

嗚呼よくやつたものだ、一人の子の始末にさえ困るのに此大勢を出來ぬ業だと誰やら云ふと、其側に村會議員の方が居て、私も入學の當日を見たのわ初めてだが今日見れば教育費わ實に安いものだ如何にもそーです夫れに斯く本人の力相當な所え編入して教えらるゝのでわるから子供の爲めにわ一層の仕合だなど話して居ると、先生より、堂ぞ御隙きの厶います時わ折り〳〵學校えお出で下さいまして授業を御覽下さる樣に願います、又お子供衆に就いてのをわ總べて私え御面談を願いたい兎角世の中にわ相互の意志の疏通せぬ處よりして教師のをを其の子の面前に於て是非さるゝ向きも厶いますそーですが、夫わ其の子供にとり害になりますとも利益になるをわ厶いませねば、此の儀わ深く御承知置き下さいませ、其の他わ總べて家庭心得に詳しく記して厶いますれば篤と御覽を願ひます、

サー皆さん明日又元氣よくお出でなさいよ、と子供の手を引いて送り出して、明日からわ爰から上り下駄わこゝ、傘わこゝに置いて、便所わこゝで斯してするのだと丁寧に教えて呉れた、保護者の中にわ涙を落して居るのも見えた、

胡蝶わ、「ちやーさん、私の先生、花野先生ねーいゝなあ明日又早く來ましよーねー　終」

婦人の本領

小島松之助

溫和なるものは男女をとはず、常に人に親愛せらるゝ者なれども男女各、其形式を異にすべきなり男子は剛毅勇敢なる性能を要し、余り溫和に過ぎ女々敷は其本領にあらず、斯る男子の多くは、物の役に立たぬものなり、然れども女子の最も緊要なる性質は溫和である

◉溫和は女子權力の秘訣にして、女子は男子の如き活動的權能を有せずと雖も、其溫和なる感化誘導の勢力は頗る强大なるものである、

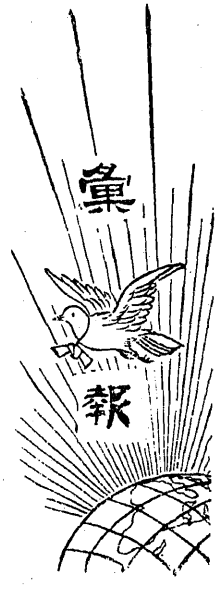
夫は數々不品狀、欠點なしとせざるも妻は其無理不正をも、克く堪へ忍ぶの勇氣あるべし、斯る場合に婦人の憤懣し執拗なるは只、夫の惡行、逆待を增すに過ぎざる者なれば斯る場合には須らく溫和勸誘によるべきである、元來女子の聲の溫和なるは不平を云ふ爲にてなく、又面貌の軟弱嬋妍なるは腹立ちて歪め易からしむる爲でもない、不如意不快の時には女子も腹立つは勿論のことなりと雖も、常に憤り、呟やくべからず、茲は一番婦人の勇氣を要する處である、男子が非道のものならざる限りは其妻が貞節にして溫和なれば早晩說服、降參するものであると。

昔獨乙の　オーギエストは非常に傲慢なる人であつたが、其皇后リヴイには常に說服せられた、王の死後、皇后に如何にして王の心を常に誘服し玉ひしかを問ひしに給はく。「其方法は寔に單簡なり、吾は常に謹愼にして貞操を守り、王の希望を豫察し、命令を實行せり、又、決して王が行爲を面のあたり吟味するが如きをなく、王の已になし玉ひし無理不正は恰も忘却せしが如く、決して王にも他人に語らざりき」と

此方法は寔に單簡なるが如しと雖、自制力幷に心情の剛毅を要し、尋常の人の行ひ能はざる所なり、

昔し世の凡ての婦人が此有德なる皇后の心掛ありて之に傚ふを得ば、世に不品行なる夫、幷に不幸なる妻は殆ど消滅すべし

◉婦人が温和の德を欠き夫婦相和せず、相反抗し或は、不平小言をならし、子供の面前にて互に愛敬することなければ此等の惡き摸範により子供の清淨、無垢なる良心を毀損するを實に寒心すべきなり、斯る家庭に育つ子供は如何でか尊敬、親愛正義の觀念を得んや、例令、財產豐かにして物質的生活は十分なるにもせよ、斯かる不德不幸なる生活は子供の德義の爲には貧困なるより幾十倍悲ひべきなり



●女子高等師範學校　▲先月十一日本校附屬校園とも始業、仝日午前九時新入學生七十五名の爲に入學許可式擧行せり。▲同二十五日午後一時本校講堂に於て、榊醫學士の講演ありたり。演題は「兒童精神疲勞の狀態に付きて」にして同氏が附屬小學校にて實驗せんとする事項に付き詳細なる說述凡そ二時間に亘れり。其大要は先づ兒童精神の疲勞の程度如何を察知せずして敎育することは頗る危險の事にして之が爲め遂に精神病に誘致するの事實なることを說き、次にエナの生理學者ウェ

ルヲルン氏の蛙の實驗及和蘭のヴン、ドゥルチー氏の犬の實驗によりて、精神の疲勞は神經細胞こゝ種の毒を生ずる狀態たることを確定せりとの事及通常の狀態に於ける神經細胞と疲勞の狀態に於ける神經細胞との如何に異なれるかを顯微鏡圖によりて說明し、次に兒童の疲勞を測定する方法に及び、終に各學科の疲勞に及ぼす勢力及び敎授の時間等に亘りて精細に演述したりといふ。▲同二十七日には今回新に募集せる國語體操專修科生三十名の入學許可式擧行せりとなり▲前に坪井敎授歸朝せられ、次ぎて井口あぐり敎授歸朝せられて以來、本校の體育頓に活氣を帶び、近來體操機械の新奇なるもの等漸次据へ付けられしとの事▲本月一日には附屬小學校生徒職員一同大久保に於て春期運動會を擧行せり▲近々本校々友會を稻毛に催うすべしとの事

●東京音樂學校　同校甲種師範科に入學を許されたる生徒は二十五名、內女子の入學生は十七名にして、去月廿一日より既に授業を始めたりといふ。

●音樂學校春季演奏會　本月一日午後二時半同校奏樂堂に開會、幸田延子孃のピアノ獨奏、同幸子孃のヴイオリン獨奏、ユンケル、ケーベル兩氏のピアノ、ヴイオリン合奏　其他に管弦合奏、唱歌合唱等あり、中々の盛會なりし由

●實踐女學校　下田歌子女史の經營せらるる同校は、府下豐多摩郡澁谷村に新築中の處、過般漸く敎場の一部出來上りて移轉し先月十八日十九日の兩日生徒作品展覽會を開きたりといふ。

●竹柏會親睦會　同會は先月十九日正午日本橋

倶樂部に開會、依田學海翁の支那劇に付きて及森鷗外氏の獨逸劇に付きての話に付きて、講談、手品等の餘興あり、而して會員の催しにかゝれる詞林三歌仙の喜劇は最も觀者の喝采を博したるが如し。尚終りて園遊會に移り、一同撮影の上五時頃散會したりといふ。

●東京府第一高等女學校　愈本學年より淺草七軒町の新築校舍に移轉し、大に規模を擴張したりとの事。

●三輪田女學校　同校は先月愈高等女學校の認可を得たりといふ。

●癸卯園遊會　下田歌子女史の經營せる實踐學校及女子工藝學校の擴張費に充てんがため、華族女學校卒業生諸氏の催しにかゝる同會は愈先月二十五、六の兩日築地水交社内に於て擧行せしが、活人畫といひ舞といひ、中々立派の見物なりきといふ。

●保育部大會　今回大阪大博覽會の開會を機として該地に開かるべき教育大會は、本月五日六日の兩日にして、其一部たる保育部大會々長大村芳樹氏より特に當會に向け招待狀を贈られたるが同會の次第書は左の如し。

保育部大會次第書

五月五日

午前八時開會

一、君ヶ代二回合唱（ピヤノ伴奏）　一同起立

一、演　說

一、音　樂（管絃合奏）

休　憩（晝食）

午後一時開會

一、音　樂（ピヤノ彈奏）

一、討　議

一、音　樂（管絃合奏）

一、討　議

一　音　樂（ピヤノ彈奏）

五月六日

午前八時開會

一　音　樂（管絃合唱）

一、遊戯の交換

一、音　樂（管絃合奏）

休　憩（晝食）

午後一時開會

一、音　樂（ピヤノ彈奏）

一、隨意談話

一、音　樂（大阪市歌ピヤノ伴奏）

散　會

新刊紹介

●家庭雜誌第一號　堺　枯川　編輯

家庭の新風味を書いた枯川氏が、大方一人で編輯せらるゝ雜誌である。從つて彼書を讀んだ人には大低此雜誌の風が分ると思ふ。我輩は此の樣な雜誌が普く一般家庭に歡迎せられん事を希望する

定價一册六錢　發行所、本郷區本郷二ノ四　由分社）

會　報

第七總會

先月二十一日午後一時半、女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會せり。初に中村主幹の開會の辭ありて次に會務報告、唱歌（保姆合唱の歌）に移り夫より井口あぐり孃の「衣食住と體育との關係」（說林に登載）に付きての演說あり。次に林蝶子、安井こう子二孃のピアノ、ヴイオリンはいと面白く合奏せられ、夫より幹事投票、休憩あり此間に陳列品など隨意參觀せられ更にタッピング夫人の演舌あり（次號に掲載すべし）て、熱心なる口調もて夫人自身の境遇より說き及ぼして普く世の保姆女子敎育家に希望せられたる所、頗る聽者の感動を引きたりしが如し。夫よりは餘興として筑前琵

琶（太田道灌、袈裟御前、黃海の戰）あり、遂に隨意談話、君が代を以て閉會せしは五時過ぐる頃なりき。

當日は朝來雨天にて午後よりは益々甚しかりしが夫にも係らず、來會者百有餘人に及び、頗る盛會を極めたり。尙中村主幹開會の辭は左の如し。

前略　本會も創立以來段々年を重ねまして今年で第七總會になつて居ります、七年と申しますと人間一生涯から見ますれば先づ小學校に這入るべき年齡に達したものであります、併し人間一代は赤子時代、幼稚園時代、少學校時代、青年時代、壯年時代、老年時代があつて、其の各時代の年數は凡そ定まつて居ります、然るに會の如きものは生れてから何年と云つて其の極まりがない、從つて其中の時代に於きましても青年時代は何年であつて、壯年時代は何年であると云ふ樣な極りはない樣に思ひます、さうして今申す如く全體から極まりがない樣なもの、人の命は百年以內が多くて百年以外は少い樣であります會は百年二百年は愚か永久に傳へらるゝものと思ひます、それでありますから會の如きは今七年の齡に達したと云ふことは人間に比ぶれば小學時代に達したと云ふをになりますけれども、會の時代から申せば小學時代に達したか其邊は判らぬと思ひます、會は人の一生涯とは異つて一年經つても壯年と云ふ時代に達するかも知れぬ、五十年經つても赤ン坊の境涯を免かれぬもあるかも知れぬ、さういふ風で年で以て會の發達は何の位に達したと云ふことは極めることは出來ぬものと思ひます、斯う考へれば我

がフレーベル會は七年の星霜を經まして人間の時代に比ぶれば何時代と定めて宜しいかこれは皆さんの御判斷に任かして私からは何の時代と云ふことを申上げませぬ。此の會をして壯年時代に達せずして赤ン坊の境涯にあつて世の中に立つて働くをも出來ぬ位置にありとせば早く壯年に達して世の中に立つて働きを爲し、其の壯年時代を長く續けて老ひぼれてからに此の世の中に何の功を爲すことなくして唯々命を繋ぎて居る樣なことでない樣に致したいと思ひます、故に一口に言へば此の會をして早く壯年時代に達して其の壯年で以て長く續いて行く樣に致したいと存じます、これは皆さんの御盡力に依つてさういふ事に致すより他ないと思ひますから此に自分が望む所を述べまして會長に代り開會の辭と致します。

當日特に祝電を贈されたるは、會員千崎如幻氏。

幹事當選

改選の結果、左の五氏幹事に當選せられたり。

下田　鶴　　田中　ふみ　　松村　久

山下　つや　　大橋　いぬ

會務報告　第七年　自明治三十五年四月至同三十六年三月

一事業昨年度内に遂行せし事業は本會規則に規定せる如く左の諸項とす

一總會　一度　三十五年四月二十日開會

一常會　四度　六月　十月　十二月　二月

一組合會　八度

組合會は幼兒發育研究組合會の一種にして現在組合員十九名あり

在組合會は從來の如く毎月一回最終土曜日に於て開き文學士松本孝次郎氏の兒童心理學と醫學士長瀨復太郎氏の衞生の講話ありたり其の講話題目左の如し

兒童心理

一、視覺に就き
二、聽覺に就き
三、觀念に關する研究
四、記憶に關し
五、想像力に關し
六、子供の遊方に就き
七、子供の遊に就き
八、情緒に就き

衞生

一、學校衞生
二、救急處置

一雜誌發行　十二度　毎月一回

右事業を實行する爲に幹事會を開くこと四度

一客員、會員數

一客員總數　二十二名

一會員總數六百五十二名（男　五十三名　（在京　二十六名　地方　二十七名）　女五百九十九名　（在京　二百五十二名　地方　三百四十七名））

入會

名古屋高等女學校　館つぬ
名古屋高等女學校　右中村五六氏紹介
仝　小久保とも
仝　宮村順
仝　小野清
金澤市上柿木畠六番地　右館つぬ子氏紹介
女子高等師範學校寄宿舍　中屋とみ
仝　平川よし
仝　加藤きつ
下谷區徒町三丁目十七番地　藤谷いわ
小石川區高田豐川町日本女子大學校　右松村久子氏紹介
仝　渡邊かず
仝　佐野とく
愛知縣知多郡龜崎町北浦　木村一千代
鞠町區富士見町六丁目十番地　右武井網枝氏紹介
栃木縣足利幼稚園　伊東せつ
仝　右林富美子氏紹介
安西せい子
右山下つや子氏紹介
青山孝子
安田倫子
右北野晴子氏紹介

日本橋區常磐幼稚園
小石川區小日向武島町十一番地
北海道札幌女子尋常小學校
日本橋區横山町二丁目十六番地
日本橋區本銀町一丁目六番地
神田區表神保町一丁目一橋幼稚園
仝
小石川區戸崎町二十六番地

右橋本はな子氏紹介　佐々木まさみ
右和田くら子氏紹介　武井はつ
右龍澤みち氏紹介　鈴木又衛
右小林千年氏紹介　山田糸子
右脇屋なほ子氏紹介　廣瀨みつ
右雨森釧子氏紹介　多田きう
右武井綱技氏紹介　青山千代
　佐藤操

轉居

奈良縣北葛城郡高田町古川橋東詰福富さん方へ　早川しか
兵庫縣明石村女子師範學校へ　藤堂忠次郎
長野縣松本町尋常高等小學校へ　勝村こま
四ッ谷舟町三番地へ　三須とし
東京府立第一高等女學校へ　村山つね
下谷區永住町百二十六宮本方へ　德永ふく
周防國山口町後河原町九十三番屋敷　桑邱ます
赤坂區新町五丁目卅九番地へ　吉田たみ

會費領收

自三月二十六日
至四月二十五日

一金十錢	三十六年四月	安東てい	
一金十錢	三十六年四月	村井あい	
一金十錢	三十六年四月	木村とらゑ	
一金十錢	三十六年四月	相川みね	
一金十錢	三十六年四月	藤岡とき	
一金十錢	三十六年四月	内田たね	
一金十錢	三十六年四月	岩田ゆき	
一金十錢	三十六年四月	益田一枝	
一金十錢	三十六年四月	奈良あい	
一金一圓二十錢	自三十六年五月至三十七年四月	山田糸子	
一金一圓	自三十六年三月至三十六年十二月	藤並　京	
一金一圓二十錢	自三十六年三月至三十七年二月	大賀ふく	
一金六十錢	自三十六年十二月至三十七年十六年	高橋いち	
一金六十錢	自三十六年十五月至三十六年五月	大橋いぬ	
一金一圓二十錢	自三十六年十六年至三十七年四月	近藤はま	
一金六十錢	自三十六年四月至三十六年九月	成瀨きよ	
一金六十錢	自三十六年九月至三十六年四月	吉澤とも	
一金一圓二十錢	自三十六年四月至三十七年三月	淺岡はま	
一金一圓二十錢	自三十七年三月至三十七年四月	牧野かね	
一金一圓七十錢	自三十五年一月至三十七年	小曾根よし	

一金六十錢　自三十六年四月至三十六年九月
一金六十錢　自三十六年十月至三十六年十二月
一金一圓　自三十六年十三月至三十六年六月
一金五十錢　自三十六年十六月至三十六年十月
一金一圓二十錢　自三十六年十一月至三十七年三月
一金六十錢　自三十七年四月至三十七年九月
一金六十錢　自三十七年十月至三十八年四月
一金五十錢　自三十八年五月至三十九年四月
一金一圓二十錢　自三十九年五月至三十九年十二月
一金一圓二十錢　自三十九年十三月至三十九年六月
一金六十錢　自三十九年七月至三十九年九月
一金六十錢　自三十九年十月至三十九年十二月
一金五十錢　自三十九年十三月至三十九年六月
一金六十錢　自三十九年七月至三十九年九月
一金一圓二十錢　自三十九年十月至三十九年十二月
一金六十錢　自三十九年十三月至三十九年六月
一金六十錢　自三十九年七月至三十九年九月
一金五十錢　自三十九年十月至三十九年十二月
一金九十錢　自三十九年十三月至三十九年六月
一金五十錢　自三十九年七月至三十九年八月
一金五十錢　自三十九年十月至三十九年十二月
一金五十錢　自三十九年十三月至三十九年六月
一金四十錢　自三十九年七月至三十九年五月

山崎いよ
瀧澤よう
堤てつ
北野はる
青山孝子
安田倫子
福尾きく
服部たき
山崎彦八
關谷いま
中野よぬ
山下つや
安藤たみ
岩村ろつ
柴岡照
牟田いよ
清水あい
山口きよ
吉川さい

一金一圓二十錢　自三十七年四月至三十七年三月
一金六十錢　自三十七年四月至三十九年九月
一金二十錢　自三十七年十月至三十七年十二月
一金一圓　自三十七年十三月至三十八年六月
一金三十錢　自三十八年七月至三十八年十二月
一金一圓二十錢　自三十八年十三月至三十九年六月
一金一圓二錢　自三十九年七月至三十九年十二月
一金三十錢　自三十九年十三月至三十九年六月
一金十錢　三十六年一月
一金一圓三十錢　自三十五年四月至三十五年四月
一金五十錢　自三十六年四月至三十六年八月
一金一圓十錢　自三十六年十月至三十六年十二月
一金一圓　自三十五年十三月至三十六年六月
一金一圓　自三十六年十月至三十六年十二月
一金一圓二十錢　自三十六年十三月至三十九年六月
一金一圓二十錢　自三十六年十月至三十六年十二月
一金八十錢　自三十五年十月至三十五年十二月

志村たか
早川いし
柳井つる
小岩ろい
池邊千束
安西せい
岩下なほ
山口保三郎
北村いと
永田よし
橋本はな
佐々木まさみ
島居しげ
佐々くき
福井榮
澤ぬひ
喜多島しう
十文字こと
富岡梅

脇屋なほ	一金九十錢	自三十七年七月至三十七年七月
脇屋よし	一金六十錢	自三十五年七月至三十五年七月
千田孝壽	一金一圓十錢	自三十六年十二月至三十六年十月
後藤いと	一金六十錢	自三十六年十月至三十六年十月
加藤たけ	一金五十錢	自三十六年十一月至三十六年十一月
大竹みさほ	一金五十錢	自三十六年十一月至三十七年三月
吉住きくえ	一金一圓二十錢	自三十六年十一月至三十七年四月
永田かい	一金六十錢	自三十六年十一月至三十七年五月
内田かれ	一金五十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
稲葉かね	一金五十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
後藤りん	一金五十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
田中ふみ	一金六十錢	自三十六年十一月至三十七年二月
三須とし	一金一圓二十錢	自三十六年十一月至三十九年五月
丸山かく	一金五十錢	自三十六年十一月至三十六年八月
柴崎けい	一金五十錢	自三十六年十一月至三十六年十月
千葉ひで	一金五十錢	自三十六年十一月至三十六年二月
妹尾明	一金五十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
岡田ちよ	一金五十錢	自三十六年十一月至三十六年四月
山中下枝	一金一圓	自三十六年十一月至三十六年四月
武井はつ	一金一圓	自三十六年十一月至三十七年一月
伊東かめ	一金五十錢	自三十六年十一月至三十七年三月
和田くら	一金一圓二十錢	自三十六年十一月至三十七年三月
鷲森よしゑ	一金二十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
有賀貞	一金二十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
篠原しき	一金二十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
山田熊之進	一金二十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
川島ふじ	一金二十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
對馬かめ	一金二十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
和田いよ	一金二十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
佐々木茂	一金二十錢	自三十六年十一月至三十六年五月
松田左和	一金六十錢	自三十六年十一月至三十七年二月
龍澤みち	一金二圓	自三十六年十一月至三十六年十二月
津原ちか	一金三十錢	自三十六年十一月至三十七年一月
佐藤葉	一金一圓	自三十六年十一月至三十八年八月
阿知和早苗	一金五十錢	自三十六年十一月至三十六年三月
吉田まさ	一金六十錢	自三十六年十一月至三十六年四月
中屋とみ	一金一圓	自三十六年十一月至三十七年一月
芳賀きぬ		

一金一圓五十錢　自三十五年二月至三十四年十二月　小松ちか
一金一圓　自三十年二月至三十六年十二月　間人たね
一金一圓　自三十年四月至三十七年一月　神代まさ
一金二圓　自三十五年十二月至三十七年七月　村山つね
一金一圓二十錢　自三十六年四月至三十七年三月　野村すぎ
一金一圓　自三十六年二月至三十六年十二月　久保やま
一金二圓　自三十七年七月至三十七年十二月　岡　みやこ
一金一圓　自三十九年十二月至三十五年十二月　神田　順
一金五十錢　自三十年二月至三十六年十二月　森　乙女
一金五十錢　自三十年四月至三十六年十二月　林　富美
一金五十錢　自三十年六月至三十六年十二月　伊東せつ
一金五十錢　自三十年八月至三十六年十二月　小谷野千代
一金五十錢　自三十年十二月至三十六年十二月　小谷野かね
一金五十錢　自三十六年六月至三十六年十二月　野尻てつ
一金一圓　自三十六年一月至三十六年十二月　小向きみ
一金三十錢　自三十六年三月至三十六年十二月　川島みつ
一金一圓二十錢　自三十六年七月至三十七年一月　脇野つい
一金六十錢　自三十六年十二月至三十七年八月　松村　貞
一金六十錢　自三十六年十二月至三十七年十二月　高島長江

一金六十錢　自三十六年三月至三十六年十二月　多湖甲子生
一金六十錢　自三十六年八月至三十六年十二月　黒田きんよ
一金六十錢　自三十六年十二月至三十七年八月　市川はるよ
一金二十錢　自三十七年三月至三十七年四月　胡桃澤田鶴
一金六十錢　自三十七年八月至三十七年十二月　勝村こま
一金一圓　自三十七年十一月至三十八年二月　中村五六
一金三十錢　自三十八年四月至三十八年六月　波多野あぐり
一金二圓四十錢　自三十八年一月至三十八年十二月　中村しげ
一金五十錢　自三十八年二月至三十八年十二月　曾野きくえ
一金五十錢　自三十八年六月至三十八年十二月　中尾いくへ
一金一圓二十錢　自三十八年十二月至三十九年七月　鹽野吉兵衛
一金三　圓　自三十九年十二月至三十九年十二月　前田捨松
一金三十錢　自三十九年十二月至三十九年六月　土井玉子
一金五十錢　自三十九年十二月至三十九年五月　齋藤清太郎

(婦人と子どもの第參卷第五號)
明治三十六年五月五日發行(毎月一回五日發行)

明治三十四年二月六日內務省許可
明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可

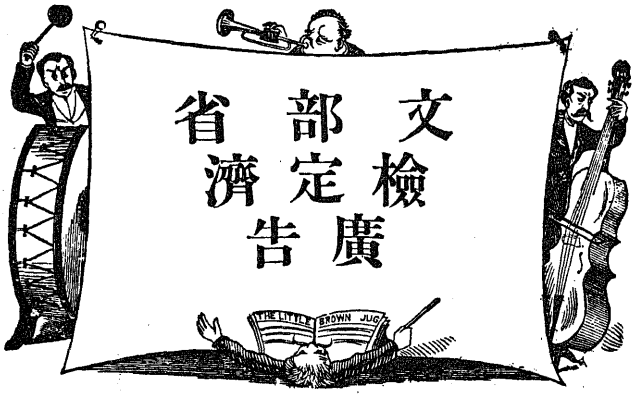
◎空前の唱歌良教科書!
◎檢定濟生徒用唱歌教科書の嚆矢
文部省檢定濟

唱歌教科書

郵稅一册に就き金四錢

教師用 全四册
第一卷定價金三十錢
第二卷定價金三十錢
第三卷定價金三十錢
第四卷定價金三十錢

生徒用 全四册
第一卷定價金五十錢
第二卷定價金五十錢
第三卷定價金五十錢
第四卷定價金十八錢



發行以來唯一の完全なる唱歌教科用書として非常なる大喝采を博し僅々數月間に三版發行の盛運に會したる本書は今回其生徒用教師用共に文部省の檢定を經て更らに其眞價を發輝するの榮を得たり從來文部省檢定濟として世に刊行せる唱歌集は皆悉く教師用即ち教師の參考書として許可せられたるのみにして生徒用即ち眞の教科用書とし て檢定を經たるものは實に本書の嚆矢たり以て本書か如何に該科の教授上最完全なる良書たるかを知るに足るべし

● 洋琴 金參百圓以上 貳千圓迄 各種

● ヴァイオリン 鈴木製 金五圓以上五拾圓迄 各種 舶來品 八圓以上百五拾圓迄 各種

● 樂隊用樂器 大太鼓金貳拾圓以上小太鼓八圓半以上シンバル金四圓以上其他バス、バリトン、テナー、アルト、コルネット、トロンボン等金貳拾圓以上百六拾圓迄

● 鼓隊用樂器 太鼓金貳拾圓以上 横笛金壹圓以上 ○學校用一組拾參圓

● 手風琴 金貳圓五拾錢以上 參拾圓迄 各種

● 附保險 山葉風琴 定價金拾六圓五拾錢以上金貳百圓迄

● 郵券貳錢御送附 目錄進呈

● ピアノ、オルガン 調律修繕

○右の外兩用風琴、吹奏琴、ハーモニカ、フラジョーレット其他各樂器並に和洋音樂附屬品各種

東京市京橋區竹川町十三番地 共益商社樂器店
(電信略號ヨキ)
電話新橋五百廿九番